Oracle® Solaris 10 9/10 インストールガイド (基本編)

Part No: 821–2327–10
2010 年 9 月

ORACLE®

Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

100901@24661

目次

はじめに 5

1 **CD** または **DVD** メディアによる **Solaris** のインストールの計画 (作業) 11
システム要件と推奨事項 12
Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件 14
ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項 15
ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量 18
インストール用のチェックリスト 20
インストールに関する詳細情報の参照先 32

2 **Solaris** インストールプログラムによる **UFS** ファイルシステムのインストール (作業) 35
SPARC: Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステムのインストールまたはアップグレード 35
▼ SPARC: Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法 36
x86: Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステムのインストールまたはアップグレード 50
▼ x86: GRUB 付き Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法 50

3 **Solaris** 対話式テキストインストーラによる **ZFS** ルートプールのインストール (計画と作業) 69
ZFS ルートプールのインストール (計画) 69
Solaris 10 10/09 リリースの新機能 70
Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS の初期インストール 71
▼ SPARC: ZFS ルートプールをインストールする方法 71
x86: Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS の初期インストール 83

▼ x86: GRUB 付き Solaris 対話式テキストインストーラを使用して ZFS をインストールする方法 83

索引 99

はじめに

このマニュアルでは、CD または DVD メディアを使用して Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) をネットワークに接続されていないシステムにインストールする方法について説明します。

このマニュアルには、システムハードウェアや周辺装置を設定する方法は記載されていません。このマニュアルでは、UFS ファイルシステムと ZFS ルートプールをインストールする方法について説明します。

注 – この Solaris のリリースでは、SPARC および x86 系列のプロセッサアーキテクチャーをサポートしています。サポートされるシステムについては、Solaris OS: Hardware Compatibility Lists (`http://www.sun.com/bigadmin/hcl`) を参照してください。本書では、プラットフォームにより実装が異なる場合は、それを特記します。

本書の x86 に関連する用語については、以下を参照してください。

- 「x86」は、64 ビットおよび 32 ビットの x86 互換製品系列を指します。
- 「x64」は、具体的には 64 ビット x86 互換 CPU を指します。
- 「32 ビット x86」は、x86 をベースとするシステムに関する 32 ビット特有の情報を指します。

サポートされるシステムについては、Solaris OS: Hardware Compatibility List を参照してください。

対象読者

このマニュアルは、Solaris OS のインストールを担当するシステム管理者を対象としています。このマニュアルでは、Solaris のインストールやアップグレードをときどき行うシステム管理者向けに、Solaris のインストールに関する基本的な情報を提供します。

Solaris のインストールに関するより詳細な情報については、6 ページの「関連情報」を参照して、その情報が記載されているマニュアルを確認してください。

関連情報

表 P–1 に、システム管理者向けのマニュアルの一覧を示します。

表 P–1 Solaris をインストールするシステム管理者向けのマニュアル

説明	情報
システム要件または計画の概要に関する情報が必要ですか。あるいは、Solaris ZFS ルートプールのインストール、GRUB ベースのブート、Solaris ゾーン区分技術、または RAID-1 ボリュームの作成に関する概要が必要ですか。	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』
停止時間をほとんど設けないで、システムをアップグレードしたり、パッチを適用したりする必要がありますか。Solaris Live Upgrade を使うことにより、アップグレード時のシステム停止時間を短縮します。	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』
ネットワークやインターネットを介してセキュリティー保護されたインストールを行う必要がありますか。WAN ブートを使用して、リモートクライアントをインストールします。あるいは、ネットワークインストールイメージからネットワークを介してインストールする必要がありますか。Solaris インストールプログラムは、手順を追ってインストールを案内します。	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』
複数のマシンに Solaris をインストールする必要がありますか。JumpStart を使用してインストールを自動化します。	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』
複数のシステムをすばやくインストールしたり、パッチを適用したりする必要がありますか。Solaris フラッシュソフトウェアを使用して Solaris フラッシュアーカイブを作成し、クローンシステム上に OS のコピーをインストールします。	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (Solaris フラッシュアーカイブの作成とインストール)』
システムのバックアップが必要ですか。	『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の第 23 章「UFS ファイルシステムのバックアップと復元 (概要)」
トラブルシューティングに関する情報、既知の問題の一覧、またはこのリリース用のパッチの一覧が必要ですか。	『Oracle Solaris Release Notes』
使用しているシステムが Solaris 上で動作することを確認する必要がありますか。	SPARC: 『Solaris Sun ハードウェアマニュアル』
このリリースで追加されたパッケージ、削除されたパッケージ、または変更されたパッケージを確認する必要がありますか。	『Oracle Solaris Package List』
使用しているシステムやデバイスが Solaris SPARC ベースのシステム、x86 ベースのシステム、およびその他のサードパーティーベンダーで動作するかどうかを確認する必要がありますか。	Solaris Hardware Compatibility List for x86 Platforms

マニュアル、サポート、およびトレーニング

追加リソースについては、次の Web サイトを参照してください。

- マニュアル (http://docs.sun.com)
- サポート (http://www.oracle.com/us/support/systems/index.html)
- トレーニング (http://education.oracle.com) – 左のナビゲーションバーで「Sun」のリンクをクリックします。

Oracle へのご意見

Oracle はドキュメントの品質向上のために、お客様のご意見やご提案をお待ちしています。誤りを見つけたり、改善に向けた提案などがある場合は、http://docs.sun.com で「Feedback」をクリックしてください。可能な場合には、ドキュメントのタイトルやパート番号に加えて、章、節、およびページ番号を含めてください。返信を希望するかどうかもお知らせください。

Oracle Technology Network (http://www.oracle.com/technetwork/index.html) では、Oracle ソフトウェアに関する広範なリソースが提供されています。

- ディスカッションフォーラム (http://forums.oracle.com) で技術的な問題や解決策を話し合う。
- Oracle By Example (http://www.oracle.com/technology/obe/start/index.html) のチュートリアルで、手順に従って操作を体験する。
- サンプルコード (http://www.oracle.com/technology/sample_code/index.html) をダウンロードする。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P–2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
`AaBbCc123`	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	`.login` ファイルを編集します。 `ls -a` を使用してすべてのファイルを表示します。 `system%`
`AaBbCc123`	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	`system%` **`su`** `password:`

表 P–2 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、`rm` *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	`sun%` **`grep ‘^#define \`** **`XV_VERSION_STRING’`**

Oracle Solaris OS に含まれるシェルで使用する、UNIX のデフォルトのシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを次に示します。コマンド例に示されるデフォルトのシステムプロンプトは、Oracle Solaris のリリースによって異なります。

- C シェル

  `machine_name%` **`command y|n`** [*filename*]

- C シェルのスーパーユーザー

  `machine_name#` **`command y|n`** [*filename*]

- Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェル

  `$` **`command y|n`** [*filename*]

- Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェルのスーパーユーザー

  `#` **`command y|n`** [*filename*]

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: `Shift` キーを押します)。ただし、キーボードによっては `Enter` キーが `Return` キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、`Ctrl-D` は `Control` キーを押したまま `D` キーを押すことを意味します。

プラットフォームによる規則

SPARC システムと x86 システムには、キーボードとマウスに関する次のような規則が適用されます。

- このマニュアル中で「Return キー」と表記しているキーは、キーボードによっては「Enter キー」という名前になっていることがあります。
- CDE のデフォルト設定では、3 ボタンマウスの各ボタンは、左から右へ「セレクト」、「アジャスト」、「メニュー」に対応しています。たとえば、「マウスの左ボタンをクリック」と記述する代わりに、「セレクトボタンをクリック」と記述されることがあります。あるいは、マウスボタン 1、マウスボタン 2、マウスボタン 3 と呼ばれることもあります。
- デフォルト設定では、2 ボタンマウスの各ボタンは、左から右へ「セレクト」、「メニュー」に対応しています。アジャストボタンの機能を使用するには、キーボードの Shift キーを押しながらセレクトボタンを押します (Shift キー + セレクト)。

第 1 章

CD または DVD メディアによる Solaris のインストールの計画 (作業)

このマニュアルでは、CD または DVD メディアを使用して Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) をネットワークに接続されていないシステムにインストールする方法について説明します。UFS ベースのファイルシステムまたは ZFS ベースのルートプールのどちらかをインストールできます。

注 – この章では、UFS ルート (/) ファイルシステムのインストールの計画、および ZFS ルートプールの計画の一部について説明します。

- ZFS ルートプールのインストールの計画に関する詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の第 6 章「ZFS ルートファイルシステムのインストール (計画)」を参照してください。
- ZFS ルートプールをインストールする場合は、第 3 章「Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS ルートプールのインストール (計画と作業)」を参照してください。

この章では、インストールを正常に完了するための準備について説明します。この章に含まれる節は次のとおりです。それに続く章では、SPARC システムおよび x86 システムでの各インストール手順について説明します。

- 12 ページの「システム要件と推奨事項」

  この節では、Solaris OS をインストールするためのシステム要件について説明します。ディスク容量を計画するための一般的なガイドラインについても説明します。

- 20 ページの「インストール用のチェックリスト」

  この節には、システムのインストールに必要な情報の収集に役立つチェックリストが含まれています。

- 32 ページの「インストールに関する詳細情報の参照先」

注 – このマニュアルでは「スライス」という用語を使用しますが、一部の Solaris のマニュアルとプログラムでは、スライスのことを「パーティション」と呼んでいる場合があります。混乱を避けるために、このマニュアルでは、`fdisk` パーティション (x86 版 Solaris でのみサポート) と、スライスやパーティションと呼ばれる Solaris の `fdisk` パーティションを区別しています。

システム要件と推奨事項

次の表に、Solaris OS をインストールするための基本的なシステム要件の一覧を示します。

表 1–1 メモリー、スワップ、およびプロセッサの推奨事項

要件	サイズ
インストールやアップグレードに必要なメモリー	■ UFS ファイルシステムの場合、メモリー要件は次のとおりです。 SPARC システムの場合: ■ 必要な最小メモリーは 384M バイトです。 ■ 推奨メモリーは 512M バイトです。 x86 システムの場合: ■ 必要な最小メモリーは 768M バイトです。 ■ 推奨メモリーは 1G バイトです。 注 – オプションのインストール機能の中には、メモリーが十分でないと有効にできないものもあります。たとえば、DVD からインストールする場合にメモリーが不足していると、Solaris インストールプログラムの GUI ではなくテキストインストーラが使用されます。これらのメモリー要件の詳細は、表 1–2 を参照してください。 ■ Solaris のこれまでのリリースでは、1T バイトより大きいサイズのディスクに Solaris OS をインストールしてブートすることはできませんでした。**Solaris 10 10/09** リリース以降では、最大 2T バイトのサイズのディスクに Solaris OS をインストールしてブートできます。 **Solaris 10 10/09** リリース以降では、どのようなサイズのディスクでも VTOC ラベルを使用できますが、VTOC によるアドレス割り当てが可能な空間は 2T バイトに制限されています。この機能により、2T バイトより大きなディスクをブートドライブとして使用できますが、ラベルから使用できる空間は 2T バイトに制限されます。 注 – この機能は、64 ビットカーネルを実行しているシステムでのみ使用できます。x86 ベースのシステムには、最低 1G バイトのメモリが必要です。 詳細は、『System Administration Guide: Devices and File Systems』の「Two-Terabyte Disk Support for Installing and Booting the Solaris OS」を参照してください。 ■ SPARC および x86 システムの ZFS ルートプールの場合: ■ 最小メモリーは 768M バイトです。 ■ ZFS の全体的なパフォーマンスを向上させるには、1G バイトのメモリーを搭載することをお勧めします。 ■ 16G バイト以上のディスク容量が推奨されます。

表 1–1 メモリー、スワップ、およびプロセッサの推奨事項 (続き)

要件	サイズ
スワップ領域	■ UFS ファイルシステムの場合、デフォルトのサイズは 512M バイトです。 ■ ZFS ルートプールについては、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ZFS インストールのディスク容量要件」を参照してください。 注 – スワップ領域のカスタマイズが必要になる場合もあります。スワップ領域は、システムのハードディスクのサイズに基づいて決まります。
プロセッサ要件	■ SPARC ベースのシステムの場合: 200 MHz 以上のプロセッサが必要です。 ■ x86 ベースのシステムの場合: 120 MHz 以上のプロセッサを推奨します。ハードウェアによる浮動小数点サポートが必要です。

Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件

Solaris 10 Operating System DVD または Solaris 10 SOFTWARE - 1 CD に入っている Solaris インストールプログラムは、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) で、あるいは対話式テキストインストーラとしてデスクトップセッションまたはコンソールセッションで、実行できます。x86 システムの場合、Solaris インストールプログラムに Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) が含まれています。

- GUI - Solaris インストール GUI には、ウィンドウ、プルダウンメニュー、ボタン、スクロールバー、アイコン画像などがあり、これらを使ってインストールプログラムを操作できます。GUI には、ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブか CD-ROM ドライブ、またはネットワーク接続、およびビデオアダプタ、キーボード、モニター、十分なメモリーが必要です。これらのメモリー要件の詳細は、表 1–2 を参照してください。
- テキストインストーラ - Solaris の対話式テキストインストーラを使用すると、端末またはコンソールウィンドウに情報を入力してインストールプログラムを操作できます。テキストインストーラは、ウィンドウ表示環境のデスクトップセッションか、コンソールセッションで実行できます。テキストインストーラには、ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブか CD-ROM ドライブ、またはネットワーク接続、およびキーボードとモニターが必要です。Solaris インストールテキストインストーラを `tip` コマンドで実行できます。詳細は、`tip(1)`のマニュアルページを参照してください。

ソフトウェアをインストールするときに、GUI を使用する方法、ウィンドウ表示環境を使用する方法、またはウィンドウ表示環境を使用しない方法を選択できます。十分なメモリーがある場合は、デフォルトで GUI が表示されます。GUI を表示できるだけの十分なメモリーがない場合は、デフォルトでその他の環境が表示され

ます。ブートオプション nowin または text を使用すると、デフォルト動作を変更できます。ただし、システムのメモリー量や遠隔インストールに関して制限されます。また、ビデオアダプタが検出されない場合、Solaris インストールプログラムは自動的にコンソールベースの環境で表示されます。表 1–2 に、これらの環境と、その表示に必要なメモリー要件を示します。

表 1–2 表示オプションとメモリー要件

メモリー	インストールの種類	説明
256-767M バイト	テキストベース	画像は含まれませんが、ウィンドウとほかのウィンドウを開く機能が提供されます。 text ブートオプションを使用している場合でシステムに十分なメモリーがあるときは、ウィンドウ表示環境でインストールされます。tip ラインを介してリモートでインストールする場合や、nowin ブートオプションを使用してインストールする場合は、コンソールベースのインストールに限定されます。
768M バイト以上	GUI ベース	ウィンドウ、プルダウンメニュー、ボタン、スクロールバー、およびアイコン画像が提供されます。

選択を入力するか、プロンプトに特別なコマンドを入力することで、インストールに使用するインストーラを指定することもできます。手順については、第 2 章「Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステムのインストール (作業)」を参照してください。

ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項

ディスク容量の計画のたて方は、ユーザーによって異なります。必要に応じて、次の条件に基づいて割り当てる容量を考慮に入れてください。

表 1–3 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画

容量割り当ての条件	説明
UFS ファイルシステム	ファイルシステムを割り当てる場合には、将来の Solaris バージョンにアップグレードするときのために、現在必要な容量よりも 30% 多く割り当ててください。 デフォルトでは、ルート(/) とスワップ領域 (/swap) だけが作成されます。OS サービスのためにディスク容量が割り当てられたときは、/export ディレクトリも作成されます。Solaris のメジャーリリースにアップグレードする場合は、システムのスライスを切り直すか、インストール時に必要な容量の 2 倍を割り当てる必要があります。Solaris Update にアップグレードする場合は、将来のアップグレードに備えて余分のディスク容量を追加しておけば、システムのスライスを切り直す手間を軽減できます。Solaris Update リリースにアップグレードするたびに、直前のリリースに比べておよそ 10% のディスク容量が追加で必要になります。ファイルシステムごとに 30% のディスク容量を追加しておくと、Solaris Update を数回追加できます。 注 – Solaris のこれまでのリリースでは、1T バイトより大きいサイズのディスクに Solaris OS をインストールしてブートすることはできませんでした。**Solaris 10 10/09** リリース以降では、最大 2T バイトのサイズのディスクに Solaris OS をインストールしてブートできます。 **Solaris 10 10/09** リリース以降では、どのようなサイズのディスクでも VTOC ラベルを使用できますが、VTOC によるアドレス割り当てが可能な空間は 2T バイトに制限されています。この機能により、2T バイトより大きなディスクをブートドライブとして使用できますが、ラベルから使用できる空間は 2T バイトに制限されます。 この機能は、64 ビットカーネルを実行しているシステムでのみ使用できます。x86 ベースのシステムには、最低 1G バイトのメモリが必要です。 詳細は、『System Administration Guide: Devices and File Systems』の「Two-Terabyte Disk Support for Installing and Booting the Solaris OS」を参照してください。
UFS ファイルシステムの /var ファイルシステム	クラッシュダンプ機能 savecore(1M) を使用する場合は、/var ファイルシステムの容量を物理メモリーの倍のサイズに設定します。

表 1–3 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画 (続き)

容量割り当ての条件	説明
スワップ	注 – ZFS ルートプールのスワップの割り当てについては、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ZFS インストールのディスク容量要件」を参照してください。 UFS ファイルシステムの場合、次のような条件では、Solaris インストールプログラムはデフォルトのスワップ領域 (512M バイト) を割り当てます。 ■ インストールプログラムによるディスクスライスの自動配置機能を使用する場合 ■ スワップスライスのサイズを手作業で変更しない場合 デフォルトでは、Solaris インストールプログラムは、利用可能な最初のディスクシリンダ (SPARC ベースのシステムでは通常シリンダ 0) でスワップが開始されるようにスワップ領域を割り当てます。この配置によって、デフォルトのディスクレイアウト時にはルート (/) ファイルシステムに最大の空間を割り当てることができ、アップグレード時にはルート (/) ファイルシステムを拡張できます。 将来スワップ領域を拡張することを考えている場合、次のいずれかの手順を実行してスワップスライスを配置することにより、別のディスクシリンダでスワップスライスを開始できます。 ■ Solaris インストールプログラムの場合、シリンダモードでディスクレイアウトをカスタマイズして、スワップスライスを目的の位置に手動で割り当てることができます。 ■ カスタム JumpStart インストールプログラムの場合、プロファイルファイル内でスワップスライスを割り当てることができます。JumpStart プロファイルファイルの詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』の「プロファイルの作成」を参照してください。 スワップ空間の概要については、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の第 20 章「追加スワップ空間の構成 (手順)」を参照してください。
ホームディレクトリファイルシステムを提供するサーバー	ホームディレクトリは、通常デフォルトで `/export` ファイルシステムにあります。
インストールする Solaris ソフトウェアグループ	ソフトウェアグループはソフトウェアパッケージの集まりです。ディスク容量を計画する際には、選択したソフトウェアグループから個々のソフトウェアパッケージを個別に追加したり削除したりできることを覚えておいてください。ソフトウェアグループの詳細は、18 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」を参照してください。
アップグレード	■ Solaris Live Upgrade を使用して非アクティブブート環境をアップグレードする際に、ディスク容量の計画に関する情報を必要とする場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』の「Solaris Live Upgrade のディスク容量の要件」を参照してください。 ■ ほかの Solaris インストール方法を使用してディスク容量を計画する場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ディスク容量の再配置を伴うアップグレード」を参照してください。

表 1–3 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画 (続き)

容量割り当ての条件	説明
言語サポート	中国語、日本語、韓国語などです。単一の言語をインストールする場合は、約 0.7G バイトのディスク容量をその言語用に追加して割り当ててください。すべての言語サポートをインストールする場合は、インストールするソフトウェアグループに応じて、最大で約 2.5G バイトのディスク容量を言語サポート用に追加して割り当てる必要があります。
印刷やメールのサポート	容量を追加します。
追加ソフトウェアや Sun 以外のソフトウェア	容量を追加します。

ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量

Solaris ソフトウェアグループは Solaris パッケージの集まりです。それぞれのソフトウェアグループには、異なる機能やハードウェアドライバのサポートが含まれています。

- 初期インストールの場合は、システムでどの機能を実行するかを考慮して、インストールするソフトウェアグループを選択します。
- アップグレードの場合は、システムにインストールされているソフトウェアグループでアップグレードする必要があります。たとえば、システムにエンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループがインストールされている場合には、開発者システムサポートソフトウェアグループにアップグレードするオプションはありません。ただし、アップグレード中に、インストール済みのソフトウェアグループに属していないソフトウェアをシステムに追加することはできます。

Solaris ソフトウェアのインストール時には、選択した Solaris ソフトウェアグループに対してパッケージを追加したり、削除したりすることができます。パッケージの追加や削除を行う場合には、ソフトウェアの依存関係や Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。

次の図は、ソフトウェアパッケージのグループを示しています。Reduced Networking サポートには、最小限の数のパッケージが含まれています。全体ディストリビューションと OEM サポートには、すべてのパッケージが含まれています。

図 1–1　Solaris ソフトウェアグループ

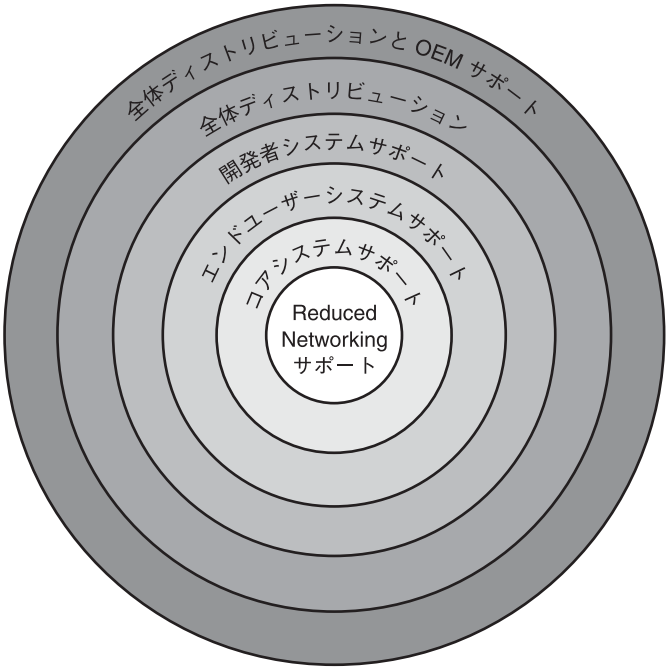


表 1–4 に、Solaris ソフトウェアグループ、およびそれぞれのグループのインストールに推奨されるディスク容量の一覧を示します。

注 – 表 1–4 の推奨ディスク容量には、次の項目の容量も含まれています。

- スワップ領域
- パッチ
- 追加のソフトウェアパッケージ

各ソフトウェアグループに必要なディスク容量は、この表に一覧表示されている容量より少ない場合があります。

ディスク容量の計画方法の詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ディスク容量とスワップ空間の割り当て」を参照してください。

表 1–4 ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量

ソフトウェアグループ	説明	推奨ディスク容量
全体ディストリビューションと OEM サポート	全体ディストリビューションのパッケージに加え、追加のハードウェアドライバが含まれています。これには、インストール時にシステムに存在していないハードウェアのドライバも含まれます。	6.8G バイト
全体ディストリビューション	開発者システムサポートのパッケージに加え、サーバーに必要な追加のソフトウェアが含まれています。	6.7G バイト
開発者システムサポート	エンドユーザーシステムサポートのパッケージに加え、ソフトウェア開発用の追加のサポートが含まれています。ソフトウェア開発のサポートとして、ライブラリ、インクルードファイル、マニュアルページ、プログラミングツールなどが追加されています。ただし、コンパイラは含まれていません。	6.6G バイト
エンドユーザーシステムサポート	ネットワークに接続された Solaris システムと共通デスクトップ環境 (CDE) の起動と実行に必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。	5.3G バイト
コアシステムサポート	ネットワークに接続された Solaris システムの起動と実行に必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。	2.0G バイト
限定ネットワークシステムサポート	ネットワークサービスのサポートが限定された Solaris システムを起動および実行するために必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。Reduced Networking サポートは、テキストベースのマルチユーザーコンソールと、システム管理ユーティリティーを提供します。このソフトウェアグループを使用すると、システムでネットワークインタフェースを認識できますが、ネットワークサービスがアクティブになることはありません。	2.0G バイト

インストール用のチェックリスト

Solaris OS のインストールに必要な情報を収集する際に、次のチェックリストを使用します。ただし、チェックリストに記載されているすべての情報を収集する必要はありません。使用するシステムに関連する情報だけを収集してください。

このチェックリストは、初期インストールを行う場合のみ使用してください。システムのアップグレードを行う場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード用のチェックリスト」を参照してください。

注 – システムに非大域ゾーンが含まれている場合は、アップグレードプログラムまたはパッチを追加するプログラムとして、Solaris Live Upgrade を推奨します。ほかのアップグレードプログラムでは、膨大なアップグレード時間が必要となる場合があります。これは、アップグレードの実行に要する時間が、インストールされている非大域ゾーンの数に比例して増加するからです。

Solaris Live Upgrade を使ったアップグレード方法については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』の パート I「Solaris Live Upgrade によるアップグレード」を参照してください。

表 1–5 インストール用チェックリスト

インストールに必要な情報	説明/例	答 — アスタリスク (*) はデフォルトを示します
ネットワーク接続	このシステムはネットワークに接続されていますか。	接続されている/接続されていない*

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答ーアスタリスク (*) はデフォルトを示します
自動登録の資格情報とプロキシ情報	オラクルの自動登録のサポート資格情報とプロキシ情報を指定しますか。 Oracle Solaris 自動登録は、Oracle Solaris 10 9/10 リリースの新機能です。システムをインストールまたはアップグレードすると、システムの構成データは、既存のサービスタグ技術によってリブート時に自動的にオラクル製品登録システムに伝達されます。システムに関するこのサービスタグデータは、オラクルのカスタマ向けサポートとサービスの向上などに役立てられます。サービスタグについては、`http://wikis.sun.com/display/ServiceTag/Sun+Service+Tag+FAQ` を参照してください。 この同じ構成データを使用して、システムの独自のインベントリを作成および管理することができます。下の登録オプションのいずれかを使ってサポート資格情報に登録することで、システムおよびシステムにインストールされているソフトウェア製品のサービスタグを記録および追跡して、システムのインベントリを簡単に作成できます。登録されている製品を追跡する手順については、`http://wikis.sun.com/display/SunInventory/Sun+Inventory` を参照してください。 インストールまたはアップグレードの前に、`auto_reg` キーワードを `sysidcfg` ファイルに追加して、次に示すように、自動登録設定を構成することができます。 ■ 自動登録のサポート資格情報とプロキシ情報を指定します。 ■ 匿名の登録を設定して、オラクルに送信する構成データとカスタマの名前がリンクしないようにします。 ■ 自動登録を無効にして、構成データがオラクルに送信されないようにします。 手順については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「auto_reg キーワード」を参照してください。 `sysidcfg` ファイルに `auto_reg` キーワードを事前に設定しない場合は、対話式のインストールまたはアップグレードの実行時に、サポート資格情報を指定するか、匿名で登録するように求められます。サポート資格情報を指定しない場合、システムは匿名のシステムとして登録されます。また、必要に応じて、プロキシ情報も指定するように求められます。 または、リブートする前に、インストールまたはアップグレードの最後で自動登録を無効にすることもできます。このガイドのインストール手順の一部として含まれている、無効にするための手順を参照してください。	My Oracle Support (または Sun Online Support) のユーザー名とパスワード プロキシサーバーのホスト名とポート番号 HTTP プロキシのユーザー名とパスワード

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答 — アスタリスク (*) はデフォルトを示します
ネットワークセキュリティー	**Solaris 10 11/06** 以降のリリースでは、初期インストール時にネットワークセキュリティー設定を変更することができ、Secure Shell を除くすべてのネットワークサービスを無効にしたり、応答する要求をローカル要求だけに制限したりすることができます。このセキュリティーオプションを使用できるのは初期インストールのときだけで、アップグレード時には使用できません。アップグレードでは、以前に設定したサービスが保持されます。ただし `netservices` コマンドを使用すれば、必要に応じてアップグレード後にネットワークサービスを制限することができます。 インストール時に、制限されたネットワークセキュリティーを選択できます。または、以前の Solaris リリースの場合のように、より多くのサービスのセットを有効にできます。インストール後に任意のサービスを個別に使用可能にできるため、制限付きネットワークセキュリティーを選択しても問題ありません。これらのオプションについての詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。 ネットワークサービスは、`netservices open` コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後に有効にすることができます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。	制限されたネットワークセキュリティー/オープンネットワークセキュリティー
DHCP	このシステムでは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使ってネットワークインタフェースを構成しますか。 DHCP はインストールに必要なネットワークパラメータを提供します。	はい/いいえ*

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答ーアスタリスク (*) はデフォルトを示します
DHCP を使用しない場合は、ネットワークアドレスをメモします。	IP アドレス	DHCP を使用しない場合は、このシステムの IP アドレスを指定します。 例: 172.31.255.255 稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。 **# ypmatch** *host-name* **hosts**	
	サブネット	DHCP を使用しない場合、このシステムはサブネットの一部ですか。 「はい」の場合は、サブネットのネットマスクを指定します。 例: 255.255.255.0 稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。 **# more /etc/netmasks**	
	IPv6	このマシンで IPv6 を使用可能にしますか。 IPv6 は TCP/IP インターネットプロトコルの 1 つで、より強固なセキュリティーを追加し、インターネットアドレスを増やすことで、IP アドレスの指定を容易にします。	はい/いいえ*
ホスト名		このシステムのホスト名。 稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。 **# uname -n**	
Kerberos		このマシンに Kerberos セキュリティーを構成しますか。 「はい」の場合は、次の情報を収集します。 デフォルトのレルム: 管理サーバー: 一次 KDC: (省略可能) 追加 KDC: Kerberos サービスは、ネットワーク経由でのセキュリティー保護されたトランザクションを提供するクライアントサーバーアーキテクチャーです。	はい/いいえ*

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答 — アスタリスク (*) はデフォルトを示します
システムでネームサービスを使用する場合は、次の情報を指定します。	ネームサービス	このシステムではどのネームサービスを使用しますか。 稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。 `# cat /etc/nsswitch.conf` ネームサービスの情報は 1 か所に保管されているので、ユーザー、マシン、およびアプリケーションはネットワーク上で相互に通信できます。たとえば、ホスト名とアドレスまたはユーザー名とパスワードなどの情報が保管されています。	NIS+/NIS/DNS/ LDAP/使用しない
	ドメイン名	システムが属するドメインの名前を指定します。 インストール時に、デフォルトの NFSv4 ドメイン名を選択できます。あるいは、カスタムの NFSv4 ドメイン名を指定することもできます。 稼働中のシステムのドメイン名を確認する方法については、『Solaris のシステム管理 (ネットワークサービス)』の「NFS version 4 のドメインを確認する」を参照してください。 ドメイン名を指定する方法についての詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール時に設定可能な NFSv4 ドメイン名」を参照してください。`sysidcfg` ファイル内に NFSv4 ドメイン名を事前に設定する場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「nfs4_domain キーワード」を参照してください。	

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答ーアスタリスク (*) はデフォルトを示します

	NIS+ および NIS	ネームサーバーを指定しますか、それともインストールプログラムにネームサーバーの検索を任せますか。
		ネームサーバーを指定する場合は、次の情報を指定します。
		サーバーのホスト名:
		■ NIS クライアントの場合、サーバーのホスト名を表示するには次のコマンドを入力します。
		`# ypwhich`
		■ NIS+ クライアントの場合、サーバーのホスト名を表示するには次のコマンドを入力します。
		`# nisping`
		サーバーの IP アドレス:
		■ NIS クライアントの場合、サーバーの IP アドレスを表示するには次のコマンドを入力します。
		`# ypmatch` *nameserver-name* `hosts`
		■ NIS+ クライアントの場合、サーバーの IP アドレスを表示するには次のコマンドを入力します。
		`# nismatch` *nameserver-name* `hosts.org_dir`
		ネットワーク情報サービス (NIS) は、マシン名やアドレスなどのさまざまなネットワーク情報を 1 つの場所で管理することによって、ネットワーク管理を容易にするためのサービスです。
			指定/検索*

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答 — アスタリスク (*) はデフォルトを示します
	DNS	DNS サーバーの IP アドレスを指定します。DNS サーバーの IP アドレスを少なくとも 1 つ、最大 3 つまで指定します。 サーバーの IP アドレス: サーバーの IP アドレスを表示するには、次のコマンドを入力します。 `# getent hosts dns` DNS 検索を行うときに検索するドメインのリストを入力できます。 検索するドメインのリスト: ドメインネームシステム (DNS) は、インターネットが TCP/IP ネットワーク用に提供するネームサービスです。DNS は、ホスト名から IP アドレスに変換するサービスを提供します。数値表現の IP アドレスの代わりにマシン名を使用するので、通信が簡単になります。また、メール管理用のデータベースとしての働きもします。	
	LDAP	LDAP プロファイルに関する次の情報を指定します。 プロファイル名: プロファイルサーバーのホスト名: LDAP プロファイルでプロキシ資格レベルを指定した場合、この情報を収集します。 プロキシバインドの識別名: プロキシバインドのパスワード: LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、TCP/IP を使って動作するディレクトリを更新したり検索したりするときに使用される、比較的単純なプロトコルです。	

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答ーアスタリスク (*) はデフォルトを示します
デフォルトルート	デフォルトルート IP アドレスを指定しますか、それとも Solaris インストールプログラムに IP アドレスの検索を任せますか。 デフォルトルートは、2 つの物理ネットワーク間のトラフィック転送用のブリッジを提供します。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する一意の番号です。 次のうちから選択できます。 ■ IP アドレスを指定できます。指定された IP アドレスを使用して `/etc/defaultrouter` ファイルが作成されます。システムをリブートすると、指定された IP アドレスがデフォルトルートになります。 ■ Solaris インストールプログラムに IP アドレスを検出させることができます。ただし、システムは、ICMP ルーター発見プロトコルを使用して自らを通知するルーターの存在するサブネット上になければなりません。コマンド行インタフェースを使用している場合は、システムの起動時に IP アドレスが検出されます。 ■ ルーターが存在しない場合、または今回はソフトウェアに IP アドレスを検出させない場合は、「なし」を選択します。リブート時に、ソフトウェアが自動的に IP アドレスの検出を試みます。	検出*/指定/なし
タイムゾーン	デフォルトの時間帯をどのように指定しますか。	地域* GMT との時差 時間帯ファイル
ルートパスワード	システムのルートパスワードを指定します。	

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答 — アスタリスク (*) はデフォルトを示します
キーボード	キーボードが自己識別型である場合は、インストール時にキーボードの言語および配列が自動的に設定されます。キーボードが自己識別型でない場合は、インストール時にサポートされているキー配列の一覧から選択できます。 PS/2 キーボードは自己識別型ではありません。インストール時にキー配列を選択するように求められます。 **SPARC** のみ – 以前は、自己識別型でないキーボードはすべて、インストール時に必ず米国英語 (U.S. English) キー配列に設定されていました。 詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「keyboard キーワード」を参照してください。	
ロケール	どの地域のサポートをインストールしますか。	
SPARC: 電源管理 (電源管理システムをサポートする SPARC システムの場合のみ)	電源管理システムを使用しますか。 注 – システムに Energy Star バージョン 3 以降がある場合、この情報の入力は求められません。	はい*/いいえ
自動的なリブートまたは CD/DVD 取り出し	ソフトウェアをインストールした後に自動的にリブートしますか。 ソフトウェアをインストールした後に CD/DVD を自動的に取り出しますか。	はい*/いいえ はい*/いいえ
デフォルトインストールまたはカスタムインストール	デフォルトのインストールを実行しますか、それともインストールをカスタマイズしますか。 ■ デフォルトインストールを選択すると、ハードディスク全体がフォーマットされ、事前に選択されている一連のソフトウェアがインストールされます。 ■ カスタムインストールを選択すると、ハードディスクの配置を変更したり、必要なソフトウェアを選択してインストールしたりできます。 注 – テキストインストーラでは、「デフォルトインストール」か「カスタムインストール」かの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。	デフォルトインストール*/カスタムインストール

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答ーアスタリスク (*) はデフォルトを示します
ソフトウェアグループ	どの Solaris ソフトウェアグループをインストールしますか。	全体ディストリビューションと OEM サポート 全体ディストリビューション* 開発者システムサポート エンドユーザーシステムサポート Core Reduced Networking サポート
カスタムパッケージ選択	インストールする Solaris ソフトウェアグループに対してソフトウェアパッケージの追加や削除を行いますか。 注 – パッケージの追加や削除を行う場合には、ソフトウェアの依存関係や Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。	
ディスクの選択	Solaris ソフトウェアをどのディスクにインストールしますか。 例: `c0t0d0`	
x86: `fdisk` によるパーティション分割	Solaris `fdisk` パーティションの作成、削除、または変更を行いますか。 ファイルシステムを配置するディスクには、Solaris `fdisk` パーティションが必要です。 システムに現在サービスパーティションがある場合、Solaris インストールプログラムはデフォルトでサービスパーティションを保存します。サービスパーティションを保存しない場合、`fdisk` パーティションをカスタマイズする必要があります。サービスパーティションの保持については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「デフォルトのブートディスクパーティションレイアウトで保存されるサービスパーティション」を参照してください。 `fdisk` パーティションのカスタマイズのためにディスクを選択しますか。 `fdisk` パーティションをカスタマイズしますか。	 はい/いいえ* はい/いいえ*

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答 — アスタリスク (*) はデフォルトを示します
データの保存	Solaris ソフトウェアをインストールするために選択したディスク上の既存のデータを保存しますか。	はい/いいえ*
ファイルシステムの自動配置	インストールプログラムに、ディスク上のファイルシステムを自動的に配置させますか。 「はい」の場合は、どのファイルシステムを自動配置しますか。 例: `/`、`/opt`、`/var` 「いいえ」の場合は、手作業でファイルシステムを配置する必要があります。 注 – Solaris インストール GUI は、デフォルトでファイルシステムを自動配置します。	はい*/いいえ
リモートファイルシステムのマウント	このシステムからほかのファイルシステムにあるソフトウェアにアクセスする必要がありますか。 必要な場合、リモートファイルシステムに関する次の情報を用意します。 サーバー: IP アドレス: リモートファイルシステム: ローカルマウントポイント:	はい/いいえ*
`tip` ラインを介してインストールを行う場合の指示	ウィンドウ表示が横 80 桁、縦 24 行以上あるか確認します。詳細は、`tip(1)` のマニュアルページを参照してください。 `tip` ウィンドウの現在の大きさを調べるには、`stty` コマンドを使用します。詳細は、`stty(1)`のマニュアルページを参照してください。	
Ethernet 接続の確認	システムがネットワークに接続されている場合は、Ethernet コネクタまたはそれに類似したネットワークアダプタがシステムに装着されていることを確認します。	

表 1–5 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答ーアスタリスク (*) はデフォルトを示します
計画の章とほかの関連マニュアルの確認	■ 計画の章の全体または特定の節を、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』のパート I「Solaris のインストールおよびアップグレードの計画の概要」で確認します。 ■ http://docs.sun.com の『Oracle Solaris 10 9/10 ご使用にあたって』やベンダーのリリースノートを参照して、使用するソフトウェアが新しい Solaris リリースでもサポートされていることを確認します。 ■ 『Oracle Solaris 10 9/10 Sun ハードウェアマニュアル』を参照して、使用するハードウェアがサポートされていることを確認します。 ■ システムに添付されている資料を参照して、使用するシステムやデバイスが Solaris リリースでサポートされていることを確認します。	

インストールに関する詳細情報の参照先

Solaris OS をインストールするための、より詳細な要件と推奨事項については、次に挙げる『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の各節を参照してください。このマニュアルには、ファイルシステムの計画のガイドラインやアップグレードの計画など、システム要件と高度な計画についての情報が含まれています。

表 1–6 インストールに関する参照先

トピック	参照
新しいインストール機能	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の第 2 章「Solaris インストールの新機能」
ネットワークセキュリティーの計画	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」
ディスク容量のガイドラインと推奨事項	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ディスク容量とスワップ空間の割り当て」

表 1–6 インストールに関する参照先 (続き)

トピック	参照
Solaris OS をアップグレードするための追加の要件と推奨事項	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード計画」 『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード用のチェックリスト」
インストール時の x86 パーティションの操作に関する情報	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「パーティション分割に関する推奨事項」
ZFS のインストール、GRUB ベースのブート、Solaris ゾーン区分技術、およびインストール時に作成可能な RAID-1 ボリュームに関する情報	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』のパート II「ZFS、ブート、Solaris ゾーン、および RAID-1 ボリュームに関連するインストールについて」
インストールプロセス全体のロードマップ	『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード」

第 2 章

Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステムのインストール (作業)

この章では、Solaris Operating System DVD または Solaris SOFTWARE - 1 CD に含まれている Solaris インストールプログラムを使用して、Solaris ソフトウェアのインストールやアップグレードを行う方法について説明します。

注 – この章では、UFS ルート (/) ファイルシステムのインストール手順について説明します。ZFS ルートプールをインストールする場合は、第 3 章「Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS ルートプールのインストール (計画と作業)」を参照してください。

この章の内容は、次のとおりです。

- 35 ページの「SPARC: Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステムのインストールまたはアップグレード」
- 50 ページの「x86: Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステムのインストールまたはアップグレード」

新しいインストール機能については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の第 2 章「Solaris インストールの新機能」を参照してください。Solaris OS におけるすべての新機能については、『Oracle Solaris 10 9/10 の新機能』を参照してください。

SPARC: Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステムのインストールまたはアップグレード

UFS ファイルシステムの場合、Solaris インストールプログラムを使用して、Solaris OS をインストールまたはアップグレードすることができます。この節では、Solaris OS をインストールするために必要な作業の一覧を示し、DVD または CD メディアから Solaris OS をインストールする方法について説明します。

▼ SPARC: Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

この手順では、スタンドアロンの SPARC システムを CD または DVD メディアから UFS ファイルシステムにインストールする方法について説明します。

注 – DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の付録 B「リモートからのインストールまたはアップグレード (作業)」を参照してください。

始める前に　インストールを開始する前に、次の作業を行います。

- 必要なメディアを用意してください。

  次のいずれかのオプションを選択します。

  - DVD でインストールする場合は、Solaris Operating System DVD (SPARC 版) が必要です。
  - CD からインストールする場合は、次の CD を使用してください。

    次のメディアが必要です。

    - Solaris SOFTWARE CD。
    - Solaris Languages CD (SPARC 版) – 特定の地域の言語をサポートする必要がある場合は、インストールプログラムによってこれらの CD を求めるプロンプトが表示されます。

    注 – **Oracle Solaris 10 9/10** リリース以降では、DVD のみ入手できます。Solaris SOFTWARE CD は入手できなくなりました。

- システムの最小要件を満たしていることを確認します。

  システムの必要条件は次のとおりです。

  - メモリー - 384M バイト以上
  - ディスク容量 – 6.8G バイト以上
  - プロセッサ速度 - 200 MHz 以上

  システム要件の詳細については、12 ページの「システム要件と推奨事項」を参照してください。

- Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。

次のいずれかのオプションを選択します。

- ネットワークに接続されていないシステムの場合:

  次の情報を収集します。

  - インストールするシステムのホスト名
  - システムで使用する予定の言語とロケール

- ネットワークに接続されたシステムの場合は、次の情報を収集します。

注 – **Solaris 10 11/06** 以降のリリースでは、初期インストール時にネットワークセキュリティー設定を変更することができ、Secure Shell を除くすべてのネットワークサービスを無効にしたり、応答する要求をローカル要求だけに制限したりすることができます。このセキュリティーオプションを使用できるのは初期インストールのときだけで、アップグレード時には使用できません。アップグレードでは、以前に設定したサービスが保持されます。ただし `netservices` コマンドを使用すれば、必要に応じてアップグレード後にネットワークサービスを制限することができます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

インストール後に `netservices open` を使用してネットワークサービスを使用可能にしたり、SMF コマンドを使用して個別のサービスを使用可能にしたりできます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

  - インストールするシステムのホスト名
  - キー配列

注 – キーボードが自己識別型の場合は、インストール時にキー配列が自動的に設定されます。キーボードが自己識別型でない場合は、インストール時にサポートされているキー配列の一覧から選択できます。

PS/2 キーボードは自己識別型ではありません。インストール時にキー配列を選択するように求められます。

詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「keyboard キーワード」を参照してください。

  - システムで使用する予定の言語とロケール
  - ホスト IP アドレス
  - サブネットマスク

- ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
- ドメイン名

注 – インストール時に、デフォルトの NFSv4 ドメイン名を選択できます。あるいは、カスタムの NFSv4 ドメイン名を指定することもできます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール時に設定可能な NFSv4 ドメイン名」を参照してください。

- ネームサーバーのホスト名
- ネームサーバーのホスト IP アドレス
- root パスワード

システムをインストールするために収集する必要のある情報については、20 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照してください。システムのアップグレードを行う場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード用のチェックリスト」を参照してください。チェックリストで説明したように、インストール時またはアップグレード時に、自動登録のサポート資格情報とプロキシ情報を指定する必要がある場合があります。

注 – システムに非大域ゾーンが含まれている場合は、アップグレードプログラムまたはパッチを追加するプログラムとして、Solaris Live Upgrade を推奨します。ほかのアップグレードプログラムでは、膨大なアップグレード時間が必要となる場合があります。これは、アップグレードの実行に要する時間が、インストールされている非大域ゾーンの数に比例して増加するからです。

Solaris Live Upgrade を使ったアップグレード方法については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』のパート I「Solaris Live Upgrade によるアップグレード」を参照してください。

- (省略可能) システムのバックアップをとります。

  既存のデータやアプリケーションを保持するには、システムのバックアップをとります。システムのバックアップ方法についての詳細は、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の第 23 章「UFS ファイルシステムのバックアップと復元 (概要)」を参照してください。

1. **Solaris Operating System DVD (SPARC 版)** または **Solaris SOFTWARE - 1 CD (SPARC 版)** を挿入します。

2 システムをブートします。

- 新しく購入したばかり (未使用) のシステムの場合は、システムの電源を入れます。
- 稼働中のシステムのインストールを行う場合は、システムをシャットダウンします。

ok プロンプトが表示されます。

3 **Solaris** インストールプログラムを起動します。

- ローカルの **DVD** または **CD** からブートし、**Solaris** インストール **GUI** をデスクトップセッションで起動するには、次のコマンドを入力します。

  ```
  ok boot cdrom
  ```

- ローカルの **DVD** または **CD** からブートし、テキストインストーラをデスクトップセッションで起動するには、次のコマンドを入力します。

  ```
  ok boot cdrom - text
  ```

  text　テキストインストーラをデスクトップセッションで実行することを指定します。このオプションは、デフォルトの GUI インストーラよりも優先されます。

- ローカルの **DVD** または **CD** からブートし、テキストインストーラをコンソールセッションで起動するには、次のコマンドを入力します。

  ```
  ok boot cdrom - nowin
  ```

  nowin　テキストインストーラをコンソールセッションで実行することを指定します。このオプションは、デフォルトの GUI インストーラよりも優先されます。

Solaris インストールプログラムの GUI およびテキストインストーラの詳細は、14 ページの「Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件」を参照してください。

オペレーティングシステムが自己識別キーボードを見つけられない場合は、次の画面にキー配列の選択情報が表示されます。

注 – PS/2 キーボードは自己識別型ではありません。インストール時にキー配列を選択するように求められます。

---

4 (省略可能) 下に示す画面から必要なキー配列を選択し、**F2** キーを押して続行します。

```
Configure Keyboard Layout
+-----------------------------------------------------------------------+
```

```
|   Please specify the keyboard layout from the list below.                |
|                                                                          |
|   To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and    |
|   press Return to mark it [X].                                           |
|                                                                          |
|            Keyboard  Layout                                              |
|            -----------------------                                       |
|       [  ] Serbia-And Montenegro                                         |
|       [  ] Slovenian                                                     |
|       [  ] Slovakian                                                     |
|       [  ] Spanish                                                       |
|       [  ] Swedish                                                       |
|       [  ] Swiss-French                                                  |
|       [  ] Swiss-German                                                  |
|       [  ] Taiwanese                                                     |
|       [  ] TurkishQ                                                      |
|       [  ] TurkishF                                                      |
|       [  ] UK-English                                                    |
|       [ X] US-English                                                    |
|                                                                          |
|    F2_Continue      F6_Help                                              |
+--------------------------------------------------------------------------+
```

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。前の方の手順で GUI インストールを選択した場合は、次の 2 つの画面で GUI が機能しているかどうかを確認します。

5 (省略可能) 次の画面で、**Enter** キーを押します。

```
Starting Solaris Interactive (graphical user interface)
Installation
+-------------------------------------------------------------+
| You must respond to the first question within 30 seconds    |
| or the installer proceeds in a non-window environment       |
| (console mode).                                             |
|                                                             |
| If the screen becomes blank or unreadable the installer     |
| proceeds in console mode.                                   |
|                                                             |
| If the screen does not properly revert to console mode,     |
| restart the installation and make the following selection:  |
|                                                             |
|      Solaris Interactive Text (Console session)             |
-------------------------------------------------------------+
```

注 – グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を表示するのに必要なメモリーがシステムに不足している場合は、プログラムが終了し、エラーメッセージが表示されます。メモリーをアップグレードして、インストールを再開できます。

インストールに必要なメモリーが不足している場合、別の方法として、インストールを再開し、GUI インストーラオプションではなくテキストインストーラオプションを選択します。

進捗メッセージが完了すると、別の確認画面が表示されます。

6 (省略可能) 次のテキスト画面内にカーソルを移動して、**Enter** キーを押します。

```
If the screen is legible, press ENTER in this window.
```

言語の選択肢の一覧が表示されます。

7 次の画面で、インストール時に使用する言語を選択し、**Enter** キーを押します。

```
Select a Language

   1. English
   2. French
   3. German
   4. Italian
   5. Japanese
   6. Korean
   7. Simplified Chinese
   8. Spanish
   9. Swedish
  10. Traditional Chinese

Please make a choice (1 - 10), or press h or ? for help:
```

8 システム構成の質問に答えます。

- すべてのシステム情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力は求められません。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 2 章「システム構成情報の事前設定 (作業)」を参照してください。
- すべてのシステム情報が事前設定されている場合以外は、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が求められます。20 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照して、構成の質問に答えてください。
- インストール時に、デフォルトの NFSv4 ドメイン名を選択できます。あるいは、カスタムの NFSv4 ドメイン名を指定することもできます。ドメイン名を指定する方法についての詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール時に設定可能な NFSv4 ドメイン名」を参照してください。
- 構成の質問の 1 つで、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を可能にするかどうかを尋ねられます。デフォルトの回答は「はい」です。

  「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは Secure Shell だけになります。「はい」を選択すると、以前の Solaris リリースと同様に、より多くの

サービスが使用可能になります。インストール後に任意のサービスを使用可能にできるため、「いいえ」を選択しても問題ありません。これらのオプションについての詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

ネットワークサービスは、`netservices open` コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後に有効にすることができます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

9 構成の質問に答え終わると、「ようこそ」画面が表示されます。「次へ **(Next)**」をクリックします。

「インストーラ・オプション (Installer Questions)」画面が表示されます。

10 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを決定します。「次へ **(Next)**」をクリックします。

重要**:** インストール後に自動登録を無効にする場合は、自動リブートの選択を解除してください。

「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。

11 インストールに使用するメディアを指定します。「次へ **(Next)**」をクリックします。

ライセンスパネルが表示されます。

12 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。「次へ **(Next)**」をクリックします。

その後、システムがアップグレード可能かどうかが判定されます。システムをアップグレードするには、Solaris ルート (/) ファイルシステムがすでに存在している必要があります。Solaris インストールプログラムは、必要な条件を検出すると、アップグレードを行います。

「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」画面が表示されます。

13 初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。「次へ **(Next)**」をクリックします。

次の画面では、デフォルトインストールまたはカスタムインストールを選択できます。

14 実行するインストールの種類を選択します。「次へ **(Next)**」をクリックします。

- 全体ディストリビューションをインストールするには、「デフォルトインストール」を選択します。

- 次の作業を行うには、「カスタムインストール」を選択します。
  - 特定のソフトウェアグループをインストールする
  - 追加のソフトウェアをインストールする
  - 特定のソフトウェアパッケージをインストールする
  - 特定のロケールをインストールする
  - ディスク配置をカスタマイズする

  ソフトウェアグループの詳細については、18 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」を参照してください。

注 – テキストインストーラでは、「デフォルトインストール」か「カスタムインストール」かの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。

---

15 構成に関する追加の質問が表示される場合は、それらに答えます。

- インストールまたはアップグレードの前に `sysidcfg` ファイルで `auto_reg` キーワードを使用して自動登録設定を行った場合は、構成に関する質問にすべて答える一部としてその情報が求められることはありません。

  注 – 自動登録については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「Oracle Solaris 自動登録」を参照してください。

- `sysidcfg` ファイルに `auto_reg` キーワードを含めなかった場合は、構成に関する質問にすべて答える一部として自動登録に関する情報を指定するように求められます。

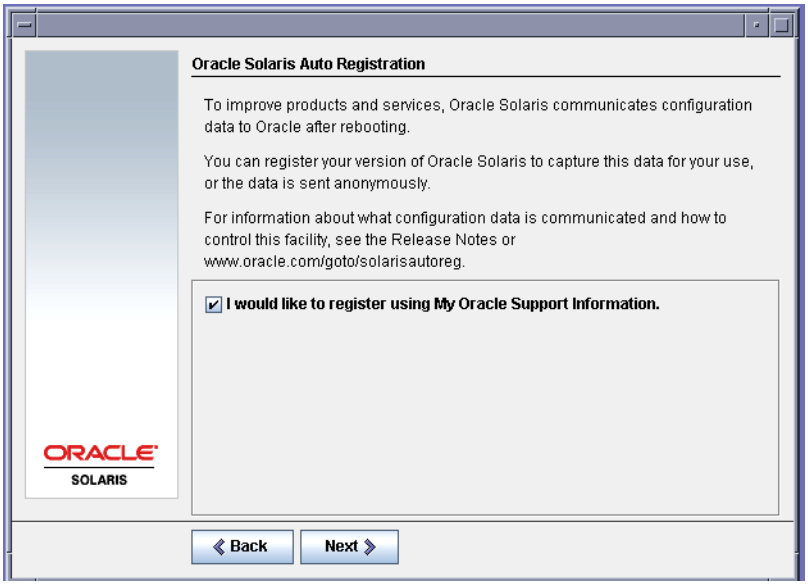
  注 – インストールまたはアップグレードの最後に自動登録を無効にする場合は、何も情報を入力せずにこれらの自動登録画面を進めることができます。

  ---

  a. サポート資格情報を使って登録するか、匿名でデータを送信するかを選択します。

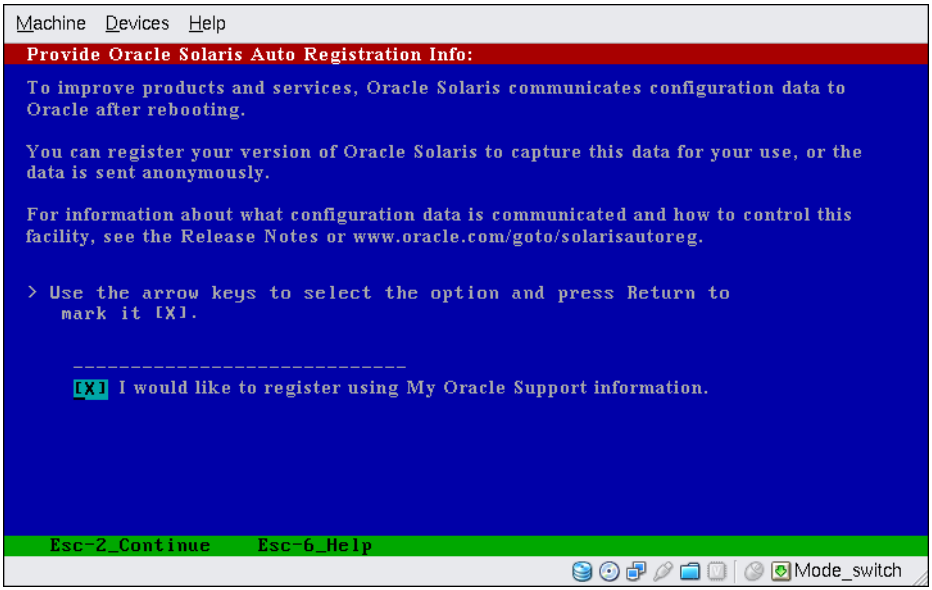
  GUI 画面が表示されます。資格情報を使った登録を選択するか、選択を解除します。「次へ」をクリックして続行します。

図 2–1　自動登録の GUI 画面



または、テキストインストーラ画面が表示されます。

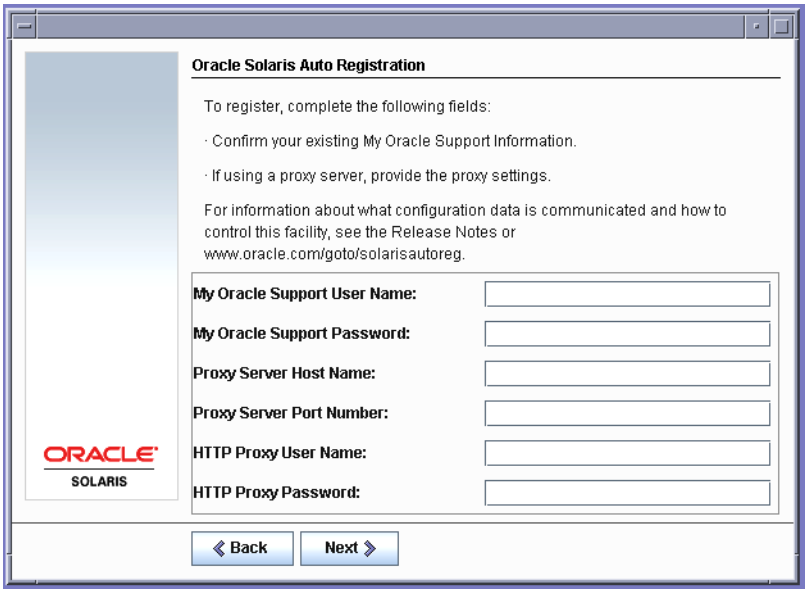
図 2–2　自動登録のテキスト画面



テキスト画面では、オプションボックスに移動するときは、矢印キーを使用します。オプションボックスに印を付けて、サポート資格情報を使って登録するときは、Return キーを押します。続けるときは、Esc_2 キーを押します。

b. 要求されたプロキシ情報と資格情報を指定します。

図 2–3　自動登録のデータ入力の GUI 画面

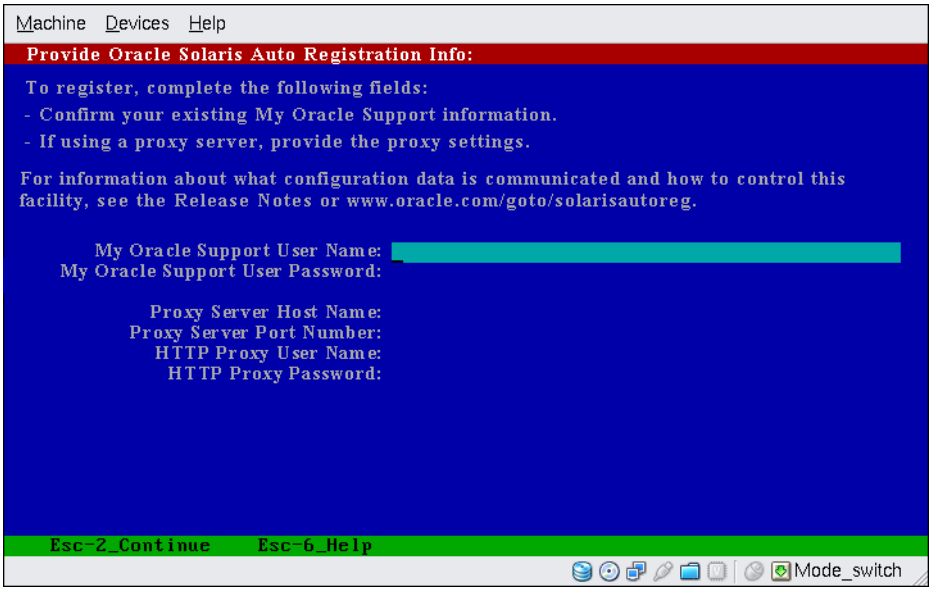


前の画面で登録することを選択した場合は、My Oracle Support のユーザー名とパスワードを指定するように求められます。プロキシサーバーを使用する場合は、サーバーのホスト名とポート番号、およびプロキシのユーザー名とパスワードを指定できます。

前の画面で匿名の登録を選択した場合は、この画面ではプロキシ情報だけを求められます。

または、テキストインストールの場合は、次の画面が表示されます。

図 2–4　自動登録のデータ入力のテキスト画面



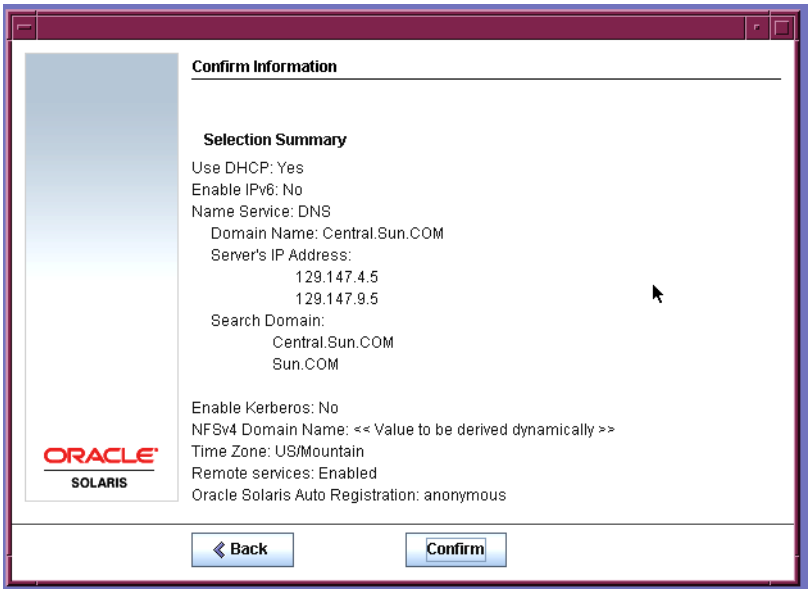
行間を移動するときは、矢印キーを使用します。サポート資格情報とプロキシエントリ (オプション) を入力します。続けるときは、Esc_2 キーを押します。

「インストールの準備完了」画面が表示されます。

16　「インストールの準備完了」画面を確認します。

注 – GUI 画面が表示されます。テキストインストール画面にも、同じサマリー情報が含まれています。

図 2–5 「インストールの準備完了」画面



17 「インストール開始」をクリックして、**Solaris** ソフトウェアをインストールします。画面の指示に従って、**Solaris** ソフトウェアをインストールします。

Solaris ソフトウェアプログラムのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。

追加の製品をインストールする場合は、その製品の DVD または CD を挿入するように指示が表示されます。インストール手順については、該当するインストールマニュアルを参照してください。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

- 初期インストールの場合は、これでインストールが完了します。
- **Solaris** ソフトウェアのアップグレードを行なっている場合は、保持されなかったローカルな変更があればそれを修正する必要があります。手順 **a** に進んでください。

  a. `/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup` ファイルの内容を確認して、**Solaris** インストールプログラムによって保持されなかったローカルな変更を修正する必要があるかどうかを判断します。

  b. 保持されなかったローカルな変更があれば、修正します。

18 前に自動リブートの選択を解除した場合は、次の **2** つのオプションのいずれかを選択します。

- 自動登録を無効にしない場合は、インストールメディアを取り出してから、次に示すように、手動でシステムをリブートします。

  ```
  # reboot
  ```

- 自動登録を無効にして、リブート時に構成データをオラクルに送信しない場合は、手動でシステムをリブートする前に、次の手順を実行します。

注意 – 次の手順に従って自動登録を無効にするには、インストール画面の最初のほうで自動リブートの選択を解除しておく必要があります。

システムが自動的にリブートする場合は、次の手順に従って自動登録を無効にすることはできません。代わりに、自動リブート後に、`regadm` コマンドを使用して自動登録を無効にできます。詳細は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の第 17 章「Oracle Solaris 自動登録コマンド regadm の操作 (手順)」を参照してください。

---

a. インストールが完了したら、手動でリブートする前に、次に示すように端末ウィンドウを開きます。

- **GUI** インストールの場合は、右クリックして端末ウィンドウを開きます。
- テキストインストールの場合は、「**!**」を押して端末ウィンドウを開きます。

b. コマンド行で、`/a/var/tmp/autoreg_config` ファイルを削除します。

c. ファイルを保存します。

d. インストールメディアを取り出して、手動でシステムをリブートします。

```
# reboot
```

注意事項　インストールまたはアップグレード時に問題が発生する場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』の付録 A「問題発生時の解決方法 (作業)」を参照してください。

x86: Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステムのインストールまたはアップグレード

Solaris インストールプログラムを使用して、Solaris OS をインストールまたはアップグレードすることができます。この節では、Solaris OS をインストールするために必要な作業の一覧を示し、DVD または CD メディアから Solaris OS をインストールする方法について説明します。

▼ x86: GRUB 付き Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

x86 システム用の Solaris インストールプログラムでは、GRUB ブートローダーが使用されます。この手順では、スタンドアロンの GRUB ブートローダー付き x86 システムを CD または DVD メディアから UFS ファイルシステムにインストールする方法について説明します。GRUB ブートローダーの概要については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の第 7 章「SPARC および x86 ベースのブート (概要と計画)」を参照してください。

注 – DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の付録 B「リモートからのインストールまたはアップグレード (作業)」を参照してください。

始める前に　インストールを開始する前に、次の作業を行います。

- 必要なメディアを用意してください。

  次のいずれかのオプションを選択します。

  - DVD からインストールする場合は、Solaris Operating System DVD (x86 版) を使用してください。
  - CD メディアからインストールする場合:

次のメディアが必要です。

- Solaris SOFTWARE CD。
- Solaris Languages CD (x86 版) – 特定の地域の言語をサポートする必要がある場合は、インストールプログラムによってこれらの CD を求めるプロンプトが表示されます。

注 – **Oracle Solaris 10 9/10** リリース以降では、DVD のみ入手できます。Solaris SOFTWARE CD は入手できなくなりました。

- システムの BIOS を調べて、CD または DVD メディアからブートできることを確認します。
- 使用するハードウェアに Solaris OS をインストールするために必要なインストール時更新 (ITU) やドライバをすべて入手します。ITU や追加のドライバが必要かどうかを調べるには、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
- システムの最小要件を満たしていることを確認します。

  システムの必要条件は次のとおりです。

  - メモリー - 768M バイト以上
  - ディスク容量 – 6.8G バイト以上
  - プロセッサ速度 - 120 MHz 以上。ハードウェアによる浮動小数点サポートが必要です

  システム要件の詳細については、12 ページの「システム要件と推奨事項」を参照してください。

  Sun Microsystems, Inc. 以外で製造されたシステムに Solaris OS をインストールする場合は、インストールを開始する前に、Solaris Hardware Compatibility List (`http://www.sun.com/bigadmin/hcl`) を確認してください。
- Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。
  - ネットワークに接続されていないシステムの場合:

    必要な情報を次に示します。

    - インストールするシステムのホスト名
    - システムで使用する予定の言語とロケール
  - ネットワークに接続されたシステムの場合は、次の情報を収集します。

注 – **Solaris 10 11/06** 以降のリリースでは、初期インストール時にネットワークセキュリティー設定を変更することができ、Secure Shell を除くすべてのネットワークサービスを無効にしたり、応答する要求をローカル要求だけに制限したりすることができます。このセキュリティーオプションを使用できるのは初期インストールのときだけで、アップグレード時には使用できません。アップグレードでは、以前に設定したサービスが保持されます。ただし `netservices` コマンドを使用すれば、必要に応じてアップグレード後にネットワークサービスを制限することができます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

ネットワークサービスは、`netservices open` コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後に有効にすることができます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

- インストールするシステムのホスト名
- キー配列

注 – キーボードが自己識別型の場合は、インストール時にキー配列が自動的に設定されます。キーボードが自己識別型でない場合は、インストール時にサポートされているキー配列の一覧から選択できます。

詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「keyboard キーワード」を参照してください。

- システムで使用する予定の言語とロケール
- ホスト IP アドレス
- サブネットマスク
- ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
- ドメイン名

注 – インストール時に、デフォルトの NFSv4 ドメイン名を選択できます。あるいは、カスタムの NFSv4 ドメイン名を指定することもできます。ドメイン名を指定する方法についての詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール時に設定可能な NFSv4 ドメイン名」を参照してください。

- ネームサーバーのホスト名
- ネームサーバーのホスト IP アドレス
- root パスワード

システムをインストールするために収集する必要のある情報については、20 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照してください。システムのアップグレードを行う場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード用のチェックリスト」を参照してください。チェックリストで説明したように、インストール時またはアップグレード時に、自動登録のサポート資格情報とプロキシ情報を指定する必要がある場合があります。

注 – システムに非大域ゾーンが含まれている場合は、アップグレードプログラムまたはパッチを追加するプログラムとして、Solaris Live Upgrade を推奨します。ほかのアップグレードプログラムでは、膨大なアップグレード時間が必要となる場合があります。これは、アップグレードの実行に要する時間が、インストールされている非大域ゾーンの数に比例して増加するからです。

Solaris Live Upgrade を使ったアップグレード方法については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』のパート I「Solaris Live Upgrade によるアップグレード」を参照してください。

- (省略可能) システムのバックアップをとります。

  既存のデータやアプリケーションを保持するには、システムのバックアップをとります。システムのバックアップ方法についての詳細は、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の第 23 章「UFS ファイルシステムのバックアップと復元 (概要)」を参照してください。

1. 適切なメディアをシステムに挿入します。

   Solaris Operating System DVD または Solaris SOFTWARE - 1 CD からブートする場合は、そのディスクを挿入します。この場合、システムの BIOS が DVD または CD からのブートをサポートしている必要があります。

   DVD または CD からブートするように BIOS を手動で設定する必要が生じることもあります。BIOS の設定方法については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

2. システムをシャットダウンして電源を切り、再び電源を入れてシステムをブートします。

3 **CD** または **DVD** からブートするように **BIOS** を手動で設定する必要がある場合は、システムのブート処理を中断する適切なキーシーケンスを入力します。

BIOS でブート優先順位を変更し、BIOS を終了してインストールプログラムに戻ります。

メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面が再表示されます。GRUB メニューが表示されます。

```
GNU GRUB version 0.95 (631K lower / 2095488K upper memory)
+-------------------------------------------------------------------------+
| Solaris                                                                 |
| Solaris Serial Console ttya                                             |
| Solaris Serial Console ttyb (for lx50, v60x and v65x)                   |
|                                                                         |
|                                                                         |
+-------------------------------------------------------------------------+
Use the ^ and v keys to select which entry is highlighted.
Press enter to boot the selected OS, 'e' to edit the
commands before booting, or 'c' for a command-line.
```

4 適切なインストールオプションを選択します。

- 現在のシステムに **CD** または **DVD** から **Solaris OS** をインストールする場合は、「**Solaris**」を選択して **Enter** キーを押します。

  デフォルト値を使用してシステムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

- インストールする **Solaris OS** の画面出力をシリアルコンソール **ttya (COM1)** に送信する場合は、「**Solaris Serial Console ttya**」を選択します。

  システムディスプレイをシリアルポート COM1 に接続されたデバイスに変更する場合は、このオプションを選択します。

- インストールする **Solaris OS** の画面出力をシリアルコンソール **ttyb (COM2)** に送信する場合は、「**Solaris Serial Console ttyb**」を選択します。

  システムディスプレイをシリアルポート COM2 に接続されたデバイスに変更する場合は、このオプションを選択します。

- ブート引数を指定して **Solaris OS** をインストールする場合は、次の手順に従ってください。

  インストール時にシステム構成をカスタマイズする場合は、ブート引数を使用します。

  a. **GRUB** メニューで、編集するインストールオプションを選択してから、**e** キーを押します。

  GRUB メニューに、次のようなブートコマンドが表示されます。

  ```
  kernel /boot/multiboot kernel/unix -B install_media=cdrom
  module /boot/x86.miniroot
  ```

  b. 矢印キーを使用して編集するブートエントリを選択してから、**e** キーを押します。

  編集するブートコマンドが、GRUB 編集ウィンドウに表示されます。

  c. 使用するブート引数またはオプションを入力して、ブートコマンドを編集します。

  GRUB 編集メニューでは、次のコマンド構文を使用します。

  ```
  grub edit>kernel /boot/multiboot kernel/unix/ \
  install [url|ask] -B options install_media=media_type

  grub edit>kernel$ /boot/platform/i86pc/$ISADIR/kernel/unix/ \
  install [url|ask] -B options install_media=media_type
  ```

  ブート引数およびコマンド構文については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 9 章「ネットワークからのインストール (コマンドリファレンス)」を参照してください。

  d. **GRUB** メニューに戻るには、次のいずれかを選択します。

  - 編集した内容を保存して **GRUB** メニューに戻るには、**Enter** キーを押します。

    GRUB メニューが表示されます。ブートコマンドに行なった編集が表示されます。

  - 編集した内容を保存せずに **GRUB** メニューに戻るには、**Escape** キーを押します。

    元の GRUB メニューが表示されます。

  e. インストールを開始するには、**GRUB** メニューに **b** と入力します。

デフォルトのブートディスクが、システムのインストールまたはアップグレードに必要な条件を満たしているかどうかが検査されます。Solaris インストールがシステム構成を検出できない場合は、不足している情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。

検査が完了すると、インストールの選択画面が表示されます。

5 インストールの種類を選択します。

インストールの選択画面には、次のオプションが表示されます。

```
Select the type of installation you want to perform:

   1 Solaris Interactive
   2 Custom JumpStart
   3 Solaris Interactive Text (Desktop session)
   4 Solaris Interactive Text (Console session)
   5 Apply driver updates
   6 Single user shell

   Enter the number of your choice followed by the <ENTER> key.
   Alternatively, enter custom boot arguments directly.

   If you wait 30 seconds without typing anything,
   an interactive installation will be started.
```

- **Solaris OS** をインストールするには、次のいずれかの操作を行います。
  - **Solaris** の対話式インストール **GUI** を使ってインストールするには、**1** と入力してから **Enter** キーを押します。
  - 自動的なカスタム **JumpStart** インストールを実行するには、**2** と入力してから **Enter** キーを押します。

    JumpStart インストールについては、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』を参照してください。
  - デスクトップセッションで対話式テキストインストーラを使ってインストールするには、**3** と入力してから **Enter** キーを押します。プロンプトに `b - text` と入力することもできます。

    このインストールの種類を選択すると、デフォルトの GUI インストーラを無効にしてテキストインストーラを実行します。

    Solaris インストール GUI およびテキストインストーラの詳細は、12 ページの「システム要件と推奨事項」を参照してください。

- コンソールセッションで対話式テキストインストーラを使ってインストールするには、**4** と入力してから **Enter** キーを押します。プロンプトで `b - nowin` と入力することもできます。

  このインストールの種類を選択すると、デフォルトの GUI インストーラを無効にしてテキストインストーラを実行します。

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。オペレーティングシステムが自己識別キーボードを見つけられない場合は、次の画面にキー配列の選択情報が表示されます。システムが自己識別キーボードを見つけた場合は、手順 9 に進んでください。

注 – インストールする前にシステム管理作業を実行する場合は、前に説明したインストールオプションの 1 つを選択するのではなく、次に説明する 2 つのオプションのどちらかを選択します。

- ドライバを更新するか、インストール時更新 (ITU) をインストールする場合は、更新するためのメディアを挿入して 5 を入力し、Enter キーを押します。

  使用するシステム上で Solaris OS を実行するために、ドライバの更新または ITU のインストールが必要になる場合があります。ドライバの更新または ITU のインストールを行う手順に従ってください。

- システム管理作業を実行する場合は、6 を入力してから、Enter キーを押します。

  インストールする前にシステム管理作業を実行する必要がある場合には、シングルユーザーシェルを起動します。インストールする前に実行できるシステム管理作業については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

これらのシステム管理作業が完了すると、前の手順で表示されたオプションリストが表示されます。インストールを続行する場合は、適切なオプションを選択してください。

---

6 (省略可能) 下に示す画面から必要なキー配列を選択し、**F2** キーを押して続行します。

```
Configure Keyboard Layout
+-----------------------------------------------------------------------------+
|   Please specify the keyboard layout from the list below.                   |
|                                                                             |
|   To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and       |
|   press Return to mark it [X].                                              |
|                                                                             |
|             Keyboard  Layout                                                |
|             -----------------------                                         |
|        [  ] Serbia-And Montenegro                                           |
|        [  ] Slovenian                                                       |
|        [  ] Slovakian                                                       |
|        [  ] Spanish                                                         |
```

```
|       [  ] Swedish                                                    |
|       [  ] Swiss-French                                               |
|       [  ] Swiss-German                                               |
|       [  ] Taiwanese                                                  |
|       [  ] TurkishQ                                                   |
|       [  ] TurkishF                                                   |
|       [  ] UK-English                                                 |
|       [ X] US-English                                                 |
|                                                                       |
|    F2_Continue      F6_Help                                           |
+-----------------------------------------------------------------------+
```

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。前の方の手順で GUI インストールを選択した場合は、次の 2 つの画面で GUI が機能しているかどうかを確認します。

7 (省略可能) 次の画面で、**Enter** キーを押します。

```
Starting Solaris Interactive (graphical user interface)
Installation
+-------------------------------------------------------------+
| You must respond to the first question within 30 seconds    |
| or the installer proceeds in a non-window environment       |
| (console mode).                                             |
|                                                             |
| If the screen becomes blank or unreadable the installer     |
| proceeds in console mode.                                   |
|                                                             |
| If the screen does not properly revert to console mode,     |
| restart the installation and make the following selection:  |
|                                                             |
|      Solaris Interactive Text (Console session)             |
-------------------------------------------------------------+
```

注 – システムに十分なメモリーがない場合は、プログラムが終了し、エラーメッセージが表示されます。メモリーをアップグレードして、インストールを再開できます。

インストールに必要なメモリーが不足している場合、別の方法として、インストールを再開し、GUI インストーラオプションではなくテキストインストーラオプションを選択します。

進捗メッセージが完了すると、別の確認画面が表示されます。

8 (省略可能) 次のテキスト画面内にカーソルを移動して、**Enter** キーを押します。

```
If the screen is legible, press ENTER in this window.
```

言語の選択肢の一覧が表示されます。

9 次の画面で、インストール時に使用する言語を選択し、**Enter** キーを押します。

```
Select a Language

   1. English
   2. French
   3. German
   4. Italian
   5. Japanese
   6. Korean
   7. Simplified Chinese
   8. Spanish
   9. Swedish
  10. Traditional Chinese

Please make a choice (1 - 10), or press h or ? for help:
```

10 構成に関する残りの質問が表示される場合は、それらに答えます。

- すべてのシステム情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力は求められません。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 2 章「システム構成情報の事前設定 (作業)」を参照してください。
- すべてのシステム情報が事前設定されている場合以外は、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が求められます。20 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照して、構成の質問に答えてください。
- 構成の質問の 1 つで、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を可能にするかどうかを尋ねられます。デフォルトの回答は「はい」です。

  「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは Secure Shell だけになります。「はい」を選択すると、以前の Solaris リリースと同様に、より多くのサービスが使用可能になります。インストール後に任意のサービスを使用可能にできるため、「いいえ」を選択しても問題ありません。これらのオプションについての詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

ネットワークサービスは、`netservices open` コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後に有効にすることができます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

構成の質問に答え終わると、「ようこそ」画面が表示されます。

11 「ようこそ」画面の「次へ **(Next)**」をクリックします。

「インストーラ・オプション (Installer Questions)」画面が表示されます。

12 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを決定します。「次へ **(Next)**」をクリックします。

重要**:** インストール後に自動登録を無効にする場合は、自動リブートの選択を解除してください。

「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。

13 インストールに使用するメディアを指定します。「次へ **(Next)**」をクリックします。

ライセンス画面が表示されます。

14 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。「次へ **(Next)**」をクリックします。

その後、システムがアップグレード可能かどうかが判定されます。システムをアップグレードするには、Solaris ルート (/) ファイルシステムがすでに存在している必要があります。Solaris インストールプログラムは、必要な条件を検出すると、アップグレードを行います。

「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」画面が表示されます。

15 初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。「次へ **(Name)**」をクリックします。

注 – インストールを開始する前に診断・サービスパーティションをシステムに復元すると、Solaris OS にアップグレードできなくなることがあります。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』の「既存のサービスパーティションが存在しないシステムでは、デフォルトでサービスパーティションが作成されない」を参照してください。

次の画面では、デフォルトインストールまたはカスタムインストールを選択できます。

16 実行するインストールの種類を選択します。「次へ (**Next**)」をクリックします。

- 全体ディストリビューションをインストールするには、「デフォルトインストール」を選択します。
- 次の作業を行うには、「カスタムインストール」を選択します。
  - 特定のソフトウェアグループをインストールする
  - 追加のソフトウェアをインストールする
  - 特定のソフトウェアパッケージをインストールする
  - 特定のロケールをインストールする
  - ディスク配置をカスタマイズする

ソフトウェアグループの詳細については、18 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」を参照してください。`fdisk` パーティションのカスタマイズについては、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「パーティション分割に関する推奨事項」を参照してください。

注 – テキストインストーラでは、「デフォルトインストール」か「カスタムインストール」かの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。

---

17 構成に関する追加の質問が表示される場合は、それらに答えます。

- インストールまたはアップグレードの前に `sysidcfg` ファイルで `auto_reg` キーワードを使用して自動登録設定を行った場合は、構成に関する質問にすべて答える一部としてその情報が求められることはありません。

  注 – 自動登録については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「Oracle Solaris 自動登録」を参照してください。

- `sysidcfg` ファイルに `auto_reg` キーワードを含めなかった場合は、構成に関する質問にすべて答える一部として自動登録に関する情報を指定するように求められます。

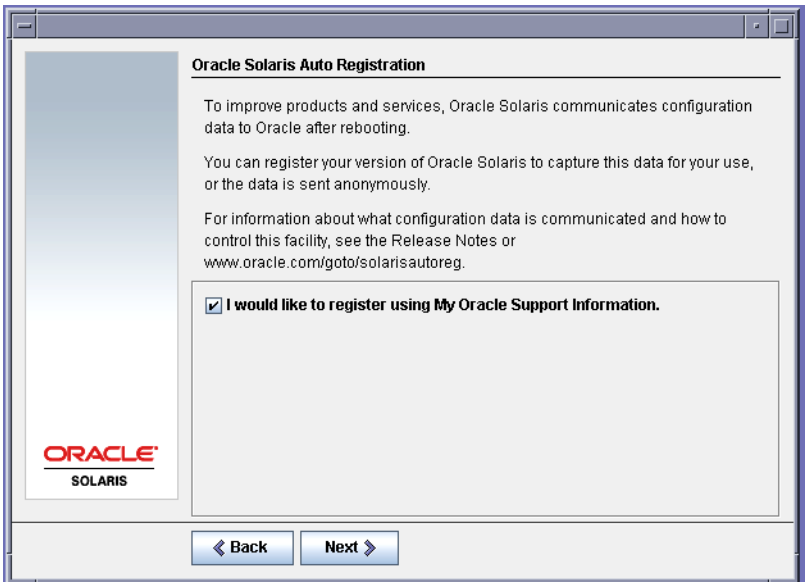
  注 – インストールまたはアップグレードの最後に自動登録を無効にする場合は、何も情報を入力せずにこれらの自動登録画面を進めることができます。

  ---

a. サポート資格情報を使って登録するか、匿名でデータを送信するかを選択します。

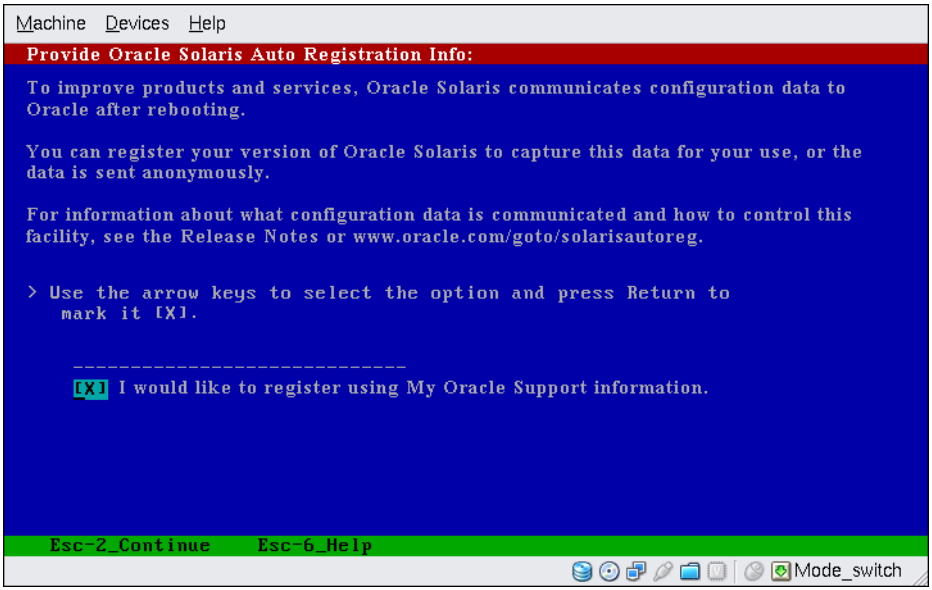
GUI 画面が表示されます。資格情報を使った登録を選択するか、選択を解除します。「次へ」をクリックして続行します。

図 2–6 自動登録の GUI 画面



または、テキストインストーラ画面が表示されます。

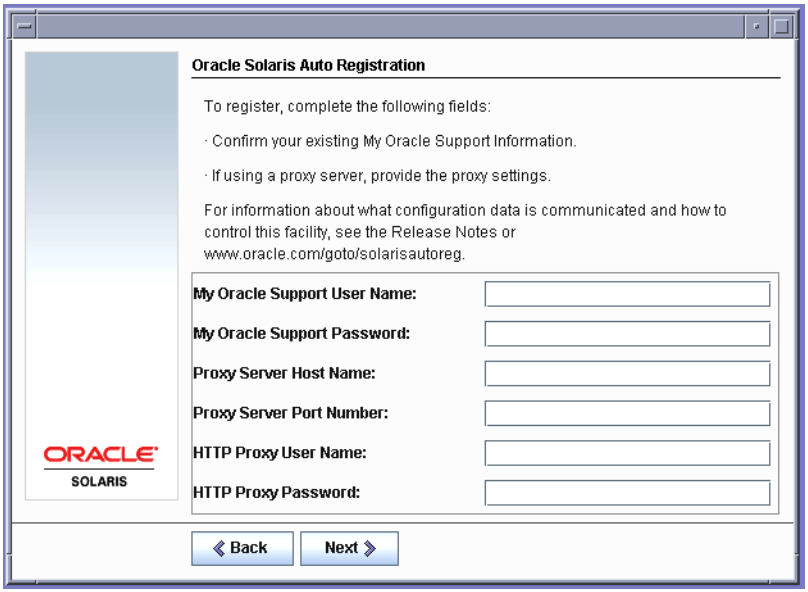
図 2–7　自動登録のテキスト画面



テキスト画面では、オプションボックスに移動するときは、矢印キーを使用します。オプションボックスに印を付けて、サポート資格情報を使って登録するときは、Return キーを押します。続けるときは、Esc_2 キーを押します。

b. 要求されたプロキシ情報と資格情報を指定します。

図 2–8　自動登録のデータ入力の GUI 画面

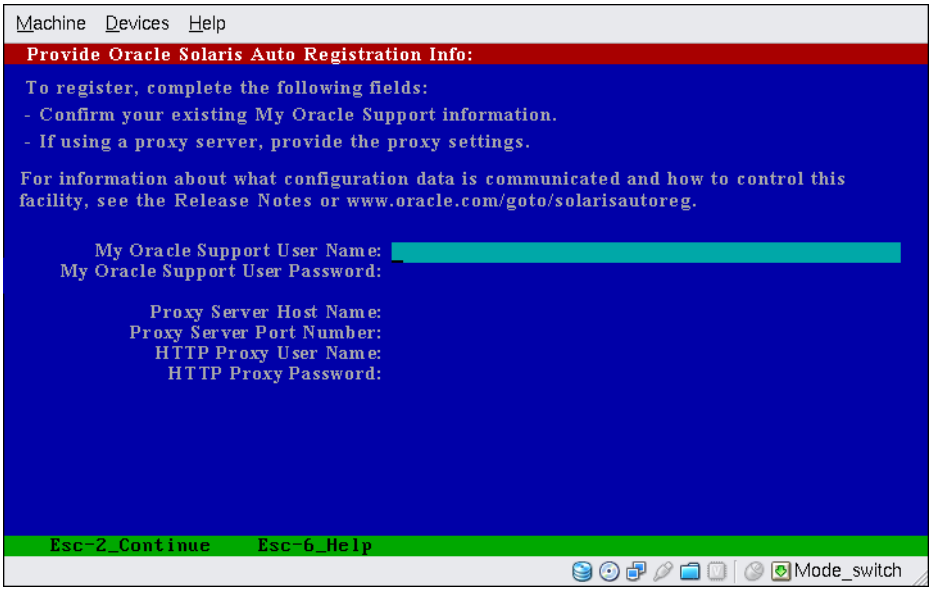


前の画面で登録することを選択した場合は、My Oracle Support のユーザー名とパスワードを指定するように求められます。プロキシサーバーを使用する場合は、サーバーのホスト名とポート番号、およびプロキシのユーザー名とパスワードを指定できます。

前の画面で匿名の登録を選択した場合は、この画面ではプロキシ情報だけを求められます。

または、テキストインストールの場合は、次の画面が表示されます。

図 2–9　自動登録のデータ入力のテキスト画面



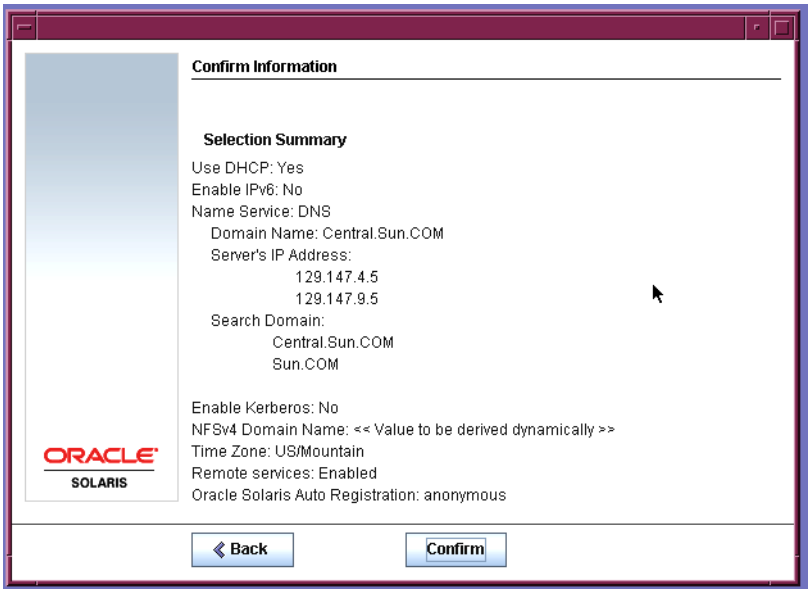
行間を移動するときは、矢印キーを使用します。サポート資格情報とプロキシエントリ (オプション) を入力します。続けるときは、Esc_2 キーを押します。

「インストールの準備完了」画面が表示されます。

18　「インストールの準備完了」画面を確認します。

注 – ここでは GUI 画面が表示されます。テキストバージョンのこの画面にも、同じ情報が含まれています。

図 2–10 「インストールの準備完了」画面



19 「インストール開始」をクリックして、**Solaris** ソフトウェアをインストールします。画面に示される手順に従って、**Solaris** ソフトウェアと追加ソフトウェア (必要な場合) をシステムにインストールします。

Solaris インストールプログラムによる Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

- 初期インストールの場合は、これでインストールが完了します。自動リブートの選択を解除した場合は、続けて手順 **20** に進みます。
- **Solaris** ソフトウェアのアップグレードを行なっている場合は、保持されなかったローカルな変更があればそれを修正する必要があります。手順 **a** に進んでください。

  a. `/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup` ファイルの内容を確認して、**Solaris** インストールプログラムによって保持されなかったローカルな変更を修正する必要があるかどうかを判断します。

  b. 保持されなかったローカルな変更があれば、修正します。

20 前に自動リブートの選択を解除した場合は、次の **2** つのオプションのいずれかを選択します。

- 自動登録を無効にしない場合は、インストールメディアを取り出してから、次に示すように、手動でシステムをリブートします。

  ```
  # reboot
  ```

- 自動登録を無効にして、リブート時に構成データをオラクルに送信しない場合は、手動でシステムをリブートする前に、次の手順を実行します。

注意 – 次の手順に従って自動登録を無効にするには、インストール画面の最初のほうで自動リブートの選択を解除しておく必要があります。

システムが自動的にリブートする場合は、次の手順に従って自動登録を無効にすることはできません。代わりに、自動リブート後に、`regadm` コマンドを使用して自動登録を無効にできます。詳細は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の第 17 章「Oracle Solaris 自動登録コマンド regadm の操作 (手順)」を参照してください。

---

a. インストールが完了したら、手動でリブートする前に、次に示すように端末ウィンドウを開きます。

- **GUI** インストールの場合は、右クリックして端末ウィンドウを開きます。
- テキストインストールの場合は、「**!**」を押して端末ウィンドウを開きます。

b. コマンド行で、`/a/var/tmp/autoreg_config` ファイルを削除します。

c. ファイルを保存します。

d. インストールメディアを取り出して、手動でシステムをリブートします。

```
# reboot
```

システムをリブートすると、GRUB メニューに、新しくインストールした Solaris OS などのインストールされているオペレーティングシステムの一覧が表示されます。

e. ブートするオペレーティングシステムを選択します。

新たに選択を行わなかった場合は、デフォルトの選択が読み込まれます。

参考 次の手順

使用するマシンに複数のオペレーティングシステムをインストールする場合、ブートするためには、それらのオペレーティングシステムを GRUB ブートローダーに認識させる必要があります。詳細は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「ブート時に GRUB メニューを編集してブート動作を変更する」を参照してください。

注意事項 インストールまたはアップグレード時に問題が発生する場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』の付録 A「問題発生時の解決方法 (作業)」を参照してください。

第 3 章

Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS ルートプールのインストール (計画と作業)

この章では、Solaris Operating System DVD または Solaris SOFTWARE - 1 CD に入っている Solaris 対話式インストールプログラムを使用して、ZFS ルートプールの初期インストールを実行する方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 69 ページの「ZFS ルートプールのインストール (計画)」
- 71 ページの「Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS の初期インストール」

ZFS ルートプールのインストール (計画)

Solaris 対話式テキストインストーラを使用して初期インストールを実行し、ブート可能な ZFS ルートプールを含む ZFS ストレージプールを作成できます。標準の GUI インストールプログラムを使用して ZFS ルートプールをインストールすることはできません。

Solaris 対話式テキストインストーラによるインストール処理は、以前の Solaris リリースと同様です。UFS ルート (/) ファイルシステムと ZFS ルートプールのどちらをインストールするかを選択できる点が異なります。このリリースでも、デフォルトのファイルシステムは UFS です。ZFS ストレージプールを作成してインストールするには、ZFS オプションを選択する必要があります。

システム上に ZFS ストレージプールがすでに存在する場合、それらは既存のプールのディスクを選択して新しいストレージプールを作成する場合以外は変更されません。既存の ZFS ストレージプールを ZFS ルートファイルシステムとして使用するには、Solaris Live Upgrade を使用して、既存の UFS ルート (/) ファイルシステムを ZFS ルートプールに移行する必要があります。Solaris Live Upgrade には、ZFS ルートプールをアップグレードする手段も用意されています。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』の第 11 章「Solaris Live Upgrade と ZFS (概要)」を参照してください。

初期インストールを実行して ZFS ストレージプールを作成する前に、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の第 6 章「ZFS ルートファイルシステムのインストール (計画)」を参照してください。

注 – SPARC と x86 の両方のシステムにおいて、ZFS ルートファイルシステムへのインストールには、768M バイト以上のメモリーが必要です。推奨メモリーは 1G バイトです。

Solaris 10 10/09 リリースの新機能

Solaris 10 10/09 リリース以降では、JumpStart プロファイルを設定して、ZFS ルートプールのフラッシュアーカイブを特定できます。

フラッシュアーカイブは、UFS ルートファイルシステムまたは ZFS ルートファイルシステムを実行しているシステムで作成できます。ZFS ルートプールのフラッシュアーカイブには、スワップボリュームとダンプボリュームおよび任意の除外されたデータセットを除く、プール階層全体が含まれます。スワップボリュームとダンプボリュームは、フラッシュアーカイブのインストール時に作成されます。

フラッシュアーカイブによるインストール方法は次のとおりです。

- ZFS ルートファイルシステムによるシステムのインストールとブートに使用できるフラッシュアーカイブを生成します。
- ZFS フラッシュアーカイブを使用して、システムの JumpStart インストールを実行します。

注 – ZFS フラッシュアーカイブを作成すると、個別のブート環境ではなく、ルートプール全体がバックアップされます。`flarcreate` コマンドと `flar` コマンドの `-D` オプションを使用すると、プール内の個別のデータセットを除外できます。

詳細と制限事項については、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ルートファイルシステムのインストール (Oracle Solaris フラッシュアーカイブインストール)」を参照してください。

Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS の初期インストール

この手順では、スタンドアロンの SPARC システムを CD または DVD メディアからインストールする方法について説明します。

▼ SPARC: ZFS ルートプールをインストールする方法

始める前に DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の付録 B「リモートからのインストールまたはアップグレード (作業)」を参照してください。

必要なメディアを用意してください。

- DVD でインストールする場合は、Solaris Operating System DVD (SPARC 版) が必要です。
- CD からインストールする場合は、次の CD を使用してください。

  次のメディアが必要です。

  - Solaris SOFTWARE CD。
  - Solaris Languages CD (SPARC 版) – 特定の地域の言語をサポートする必要がある場合は、インストールプログラムによってこれらの CD を求めるプロンプトが表示されます。

注 – **Oracle Solaris 10 9/10** リリース以降では、DVD のみ入手できます。Solaris SOFTWARE CD は入手できなくなりました。

既存のデータやアプリケーションを保持するには、システムのバックアップをとります。

- UFS ファイルシステムのバックアップについては、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の第 23 章「UFS ファイルシステムのバックアップと復元 (概要)」を参照してください
- ZFS ルートプールのバックアップについては、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS データを送信および受信する」を参照してください

1. **Solaris Operating System DVD (SPARC 版)** または **Solaris SOFTWARE - 1 CD (SPARC 版)** を挿入します。

2 システムをブートします。

- 新しく購入したばかり (未使用) のシステムの場合は、システムの電源を入れます。
- 稼働中のシステムのインストールを行う場合は、システムをシャットダウンします。

ok プロンプトが表示されます。

3 **Solaris** 対話式テキストインストーラを起動します。インストール **GUI** を実行して **ZFS** ルートプールをインストールすることはできません。ローカルの **DVD** または **CD** からブートし、テキストインストーラをデスクトップセッションで起動するには、次のコマンドを入力します。

```
ok boot cdrom - text
```

text　テキストインストーラをデスクトップセッションで実行することを指定します。このオプションは、デフォルトの GUI インストーラよりも優先されます。

オペレーティングシステムが自己識別キーボードを見つけられない場合は、次の画面にキー配列の選択情報が表示されます。

注 – PS/2 キーボードは自己識別型ではありません。インストール時にキー配列を選択するように求められます。

---

4 (省略可能) 下に示す画面から必要なキー配列を選択し、**F2** キーを押して続行します。

```
Configure Keyboard Layout
+-----------------------------------------------------------------------+
|   Please specify the keyboard layout from the list below.             |
|                                                                       |
|   To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and |
|   press Return to mark it [X].                                        |
|                                                                       |
|            Keyboard  Layout                                           |
|            -----------------------                                    |
|       [  ] Serbia-And Montenegro                                      |
|       [  ] Slovenian                                                  |
|       [  ] Slovakian                                                  |
|       [  ] Spanish                                                    |
|       [  ] Swedish                                                    |
|       [  ] Swiss-French                                               |
|       [  ] Swiss-German                                               |
|       [  ] Taiwanese                                                  |
|       [  ] TurkishQ                                                   |
|       [  ] TurkishF                                                   |
|       [  ] UK-English                                                 |
|       [ X] US-English                                                 |
```

```
|                                                                        |
|    F2_Continue      F6_Help                                            |
+------------------------------------------------------------------------+
```

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。言語の選択肢の一覧が表示される場合があります。この画面が表示されない場合は、手順 6 に進んでください。

5 (省略可能) 言語の選択画面が表示される場合があります。インストール時に使用する言語を選択し、**F2** キーを押します。

```
Select a Language
+------------------------------------------------------------------------+
|   Please specify the the language from the list below.                 |
|                                                                        |
|   To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and  |
|   press Return to mark it [X].                                         |
|                                                                        |
|       [  ] English                                                     |
|       [  ] French                                                      |
|       [  ] German                                                      |
|       [  ] Italian                                                     |
|       [  ] Japanese                                                    |
|       [  ] Korean                                                      |
|       [  ] Simplified Chinese                                          |
|       [  ] Spanish                                                     |
|       [  ] Swedish                                                     |
|       [  ] Traditional Chinese                                         |
|       [  ] UK-English                                                  |
|                                                                        |
|    F2_Continue      F6_Help                                            |
+------------------------------------------------------------------------+
```

6 **F2** キーを押してインストールを開始します。構成に関する残りの質問が表示される場合は、それらに答えます。

- システム情報の事前設定

  次のいずれかのオプションを選択します。

  - すべてのシステム情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力は求められません。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 2 章「システム構成情報の事前設定 (作業)」を参照してください。
  - すべてのシステム情報が事前設定されている場合以外は、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が求められます。20 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照して、構成の質問に答えてください。

- ネットワーク構成

  構成の質問の 1 つで、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を可能にするかどうかを尋ねられます。デフォルトの回答は「はい」です。

「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは Secure Shell だけになります。「はい」を選択すると、以前の Solaris リリースと同様に、より多くのサービスが使用可能になります。インストール後に任意のサービスを使用可能にできるため、「いいえ」を選択しても問題ありません。これらのオプションについての詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

ネットワークサービスは、`netservices open` コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後に有効にすることができます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

構成の質問に答え、ルートパスワードを設定すると、Solaris の対話式インストール画面が表示されます。

```
Solaris Interactive Installation
+-----------------------------------------------------------------------------+
|On the following screens, you can accept the defaults or you can customize |
| how Solaris software will be install by:                                    |
|  - Selecting the type of Solaris software to install                        |
|  - Selecting disks to hold the software you've selected                     |
|  - Selecting unbundled products to be installed with Solaris                |
|  - Specifying how file systems are laid out on the disks                    |
|                                                                             |
|After completing these tasks, a summary of your selections                  |
|(called a profile) will be displayed.                                        |
|                                                                             |
|There are two ways to install your Solaris software:                         |
|                                                                             |
|  - "Standard" installs your system from a standard Solaris                 |
|     Distribution. Selecting "standard" allows you to choose                |
|     between initial install and upgrade, if your system is upgradeable.    |
|                                                                             |
|  - "Flash" installs your system from one or more Flash Archives.           |
|                                                                             |
|    F2_Continue      F6_Help                                                 |
+-----------------------------------------------------------------------------+
```

7 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを決定します。**F2** キーを押します。

重要**:** インストール後とリブート前の自動登録を無効にする場合は、自動リブートの選択を解除します。

システム上に ZFS ストレージプールがすでに存在する場合、それらは次のメッセージで認識されますが、既存のプールのディスクを選択して新しいストレージプールを作成する場合以外は変更されません。

```
There are existing ZFS pools available on this system.  However, they can only be upgraded
using the Live Upgrade tools.  The following screens will only allow you to install a ZFS root system,
not upgrade one.
```

ライセンス画面が表示されます。

8 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。**F2** キーを押します。

「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」画面が表示される場合があります。アップグレード可能な UFS ファイルシステムがある場合は、この画面が表示されます。この画面が表示されない場合は、手順 10 に進んでください。

9 **ZFS** のインストールを実行するには、**F4** キーを押して初期インストールを行う必要があります。

地域、ロケール、および追加の製品を選択する画面が表示されます。

10 地域、ロケール、および追加の製品を選択します。

「ファイルシステムの種類の選択」画面が表示されます。

11 **ZFS** ルートプールを作成するには、**ZFS** オプションを選択し、**F2** キーを押します。

```
Choose a Filesystem Type
+-----------------------------------------------------------------------------+
|   Select the filesystem to use for your Solaris installation                |
|                                                                             |
|           [ ] UFS                                                           |
|           [X] ZFS                                                           |
|                                                                             |
|    F2_Continue      F6_Help                                                 |
+-----------------------------------------------------------------------------+
```

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

12 実行するインストールの種類を選択します。**F2** キーを押します。

デフォルトインストールを実行するには、表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。この例では、デフォルトの「全体ディストリビューション」のインストールが選択されています。

ソフトウェアグループの詳細については、18 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」 を参照してください。

```
Select Software
+-----------------------------------------------------------------------------+
|Select the Solaris software to install on the system                         |
|                                                                             |
```

```
|Note: After selecting a software group, you can add or remove              |
|software by customizing it. However this requires understanding of         |
|software dependencies and how Solaris software is packaged.                |
|                                                                           |
|  [ ] Entire Distribution plus OEM support ......5838.00 MB                |
|  [X] Entire Distribution........................5830.00 MB                |
|  [ ] Developer System Support...................5695.00 MB                |
|  [ ] End User System Support....................4747.00 MB                |
|  [ ] Core System Support........................1558.00 MB                |
|  [ ] Reduced Networking Core System Support.....1512.00 MB                |
|                                                                           |
|    F2_Continue      F6_Help                                               |
+---------------------------------------------------------------------------+
```

「ディスクの選択」画面が表示されます。

13 インストールするソフトウェアを選択したあと、**ZFS** ストレージプールを作成するためのディスクの選択を求めるプロンプトが表示されます。この画面は以前の **Solaris** リリースと同様ですが、次のテキストが異なります。

```
For ZFS, multiple disks will be configured as mirrors, so the disk you choose,
or the slice within the disk must exceed the Suggested Minimum value.
```

ZFS ルートプールに使用するディスクとして、1 つまたは複数を選択できます。

- 単一のディスクを選択した場合、あとでミラー化構成にするには、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプール内のデバイスを管理する」で `zpool attach` コマンドを参照してください。
- 2 つのディスクを選択すると、ルートプールには 2 ディスク構成が設定されます。2 ディスクまたは 3 ディスクのミラー化プールが最適です。
- 8 つのディスクがある場合に 8 つのディスクすべてを選択すると、ルートプールでは 8 つのディスクが単一の大規模なミラーとして使用されます。これは最適な構成ではありません。

ルートプールでは RAID-Z プール構成はサポートされていません。ZFS ストレージプールの構成方法の詳細については、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプールの複製機能」を参照してください。

```
Select Disks
+---------------------------------------------------------------------------+
|On this screen you must select the disks for installing Solaris            |
|software. Start by looking at the Suggested Minimum Field;                 |
|this value is the approximate space needed to install the software         |
|you've selected. For ZFS, multiple disks will be configured as mirrors,    |
|so the disk you choose on the slice within the disk must exceed            |
|the Suggested Minimum Value.                                               |
|                                                                           |
|  Note: xx denotes the current boot disk                                   |
|                                                                           |
|Disk Device                                          Available Space       |
|=========================================================================  |
|                                                                           |
|[X]xx c0t0d0                                          29164 MB (F4 to edit)  |
```

```
|                                                                        |
|                                Maximum Root Size: 29164 MB             |
|                                Suggested Minimum: 5838 MB              |
|                                                                        |
|    F2_Continue      F6_Help                                            |
+------------------------------------------------------------------------+
```

「データの保存」画面が表示されます。

14 (省略可能) ソフトウェアをインストールするために選択したディスク上のデータを保存します。

インストール用に選択したディスクに、ファイルシステムや命名されていないスライスが存在する場合、必要であればこの時点でそれらを保存できます。

```
Preserve Data?
+------------------------------------------------------------------------+
|Do you want to preserve existing data? At least one of the disks you've  |
|selected for installing Solaris software has file systems or unnamed slices|
|that you may want to save                                               |
|                                                                        |
|                                                                        |
|    F2_Continue      F4_Preserve    F6_Help                             |
+------------------------------------------------------------------------+
```

データを保存する場合は F4 キーを押すと、データを保存するための画面が表示されます。

15 (省略可能) 保存するデータを選択します。

```
Preserve Data
+------------------------------------------------------------------------+
|On this screen you can perserve the data on some or all disk slices. Any |
|slice you preserve will not be touched when Solaris software is installed |
|If  you preserve data on / (root), /usr, or /var you  must rename them   |
|because new versions of these file systems are created when Solaris     |
|software is installed.                                                  |
|                                                                        |
|Warning: Preserving an 'overlap' slice will not preserve any data within |
|it. To preserve this data, you must explicitly set the mount point name. |
|                                                                        |
|Mount Point or Pool                  State    Disk/Slice            Size |
|======================================================================= |
|[ ] zfs: rpool                       Online    c0t0d0s0          27133 MB |
|[ ]swap                                        c0t1d0s1           2047 MB |
|[X]overlap                                     c0t2d0s2          29188 MB |
|                                                                        |
|                                                                        |
|    F2_Continue                     F6_Help                             |
+------------------------------------------------------------------------+
```

ZFS 設定を構成するための画面が表示されます。

16 デフォルト値をそのまま使用できます。または、**ZFS** プールの名前、データセット名、プールサイズ、スワップ、およびダンプを変更できます。また、/var ファイルシステムの作成およびマウントの方法を変更することもできます。

```
Configure ZFS Settings
+------------------------------------------------------------------------ -+
|Specify the name of the pool to be created from the disk(s) you have chosen.|
|Also specify the name of the dataset to be created within the pool that is  |
|to be used as the root directory for the filesystem.                        |
|                                                                            |
|                                                                            |
|              ZFS Pool Name: rpool                                          |
|      ZFS Root Dataset Name: szboot_0507                                    |
|          ZFS Pool Size in (MB): 17270                                      |
|          Size of swap area in (MB): 1024                                   |
|          Size of dump area in (MB): 1024                                   |
|        (Pool size must be between 9472 MB and 17270 MB)                    |
|                                                                            |
|                         [X] Keep / and /var combined                       |
|                         [ ] Put /var on a separate dataset                 |
|                                                                            |
|    F2_Continue      F6_Help                                                |
+------------------------------------------------------------------------ --+
```

リモートファイルシステムをマウントするための画面が表示されます。

17 リモートファイルシステムをマウントするかどうかを決定します。

```
Mount Remote File System
+------------------------------------------------------------------------ -+
|Do you want to mount a software from a remote file server? This may         |
|be necessary if you had to remove software because of disk space problems.  |
|                                                                            |
|                                                                            |
|    F2_Continue      F6_Help                                                |
+------------------------------------------------------------------------ --+
```

18 構成に関する追加の質問が表示される場合は、それらに答えます。

- インストールまたはアップグレードの前に sysidcfg ファイルで auto_reg キーワードを使用して自動登録設定を行った場合は、構成に関する質問にすべて答える一部としてその情報が求められることはありません。

注 – auto_reg キーワードの使用方法については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「auto_reg キーワード」を参照してください。

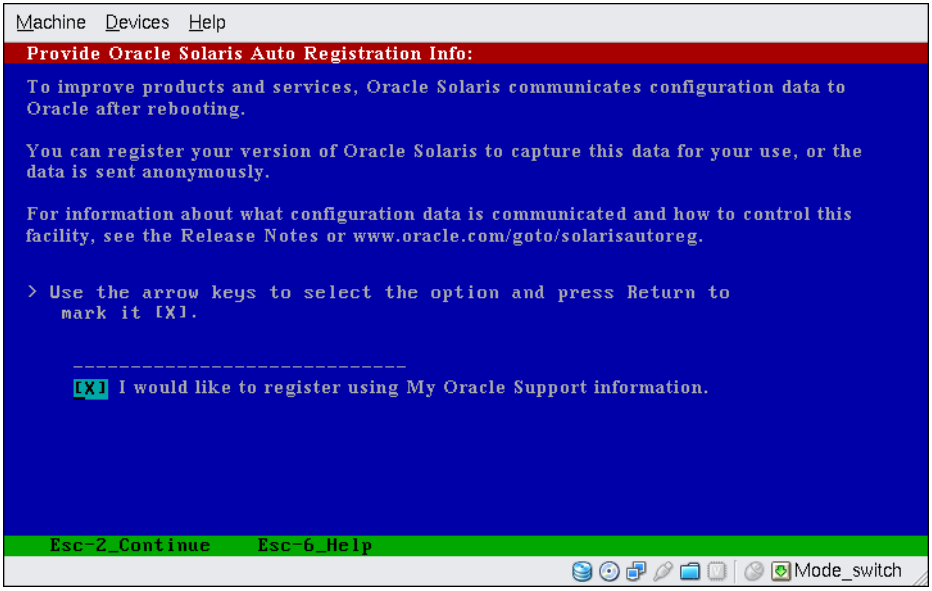
- sysidcfg ファイルに auto_reg キーワードを含めなかった場合は、構成に関する質問にすべて答える一部として自動登録に関する情報を指定するように求められます。

注 – インストールまたはアップグレードの最後に自動登録を無効にする場合は、何も情報を入力せずにこれらの自動登録画面を進めることができます。

---

a. サポート資格情報を使って登録するか、匿名でデータを送信するかを選択します。

図 3–1 自動登録のテキスト画面



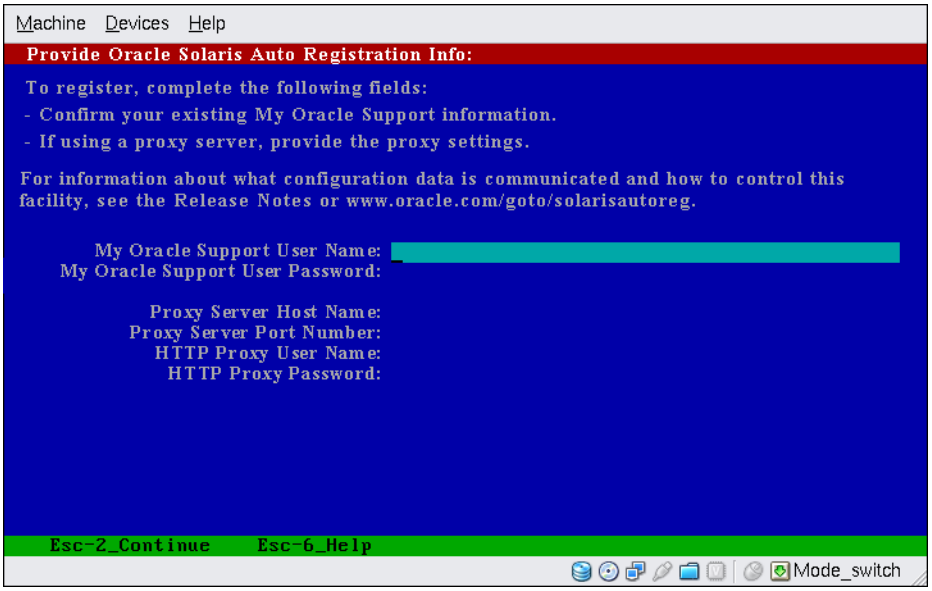
この画面では、オプションボックスに移動するときは、矢印キーを使用します。オプションボックスに印を付けて、サポート資格情報を使って登録するときは、Return キーを押します。続けるときは、Esc_2 キーを押します。

b. 要求されたプロキシ情報と資格情報を指定します。

前の画面で登録することを選択した場合は、My Oracle Support のユーザー名とパスワードを指定するように求められます。プロキシサーバーを使用する場合は、サーバーのホスト名とポート番号、およびプロキシのユーザー名とパスワードを指定できます。

前の画面で匿名の登録を選択した場合は、この画面ではプロキシ情報だけを求められます。

図 3–2　自動登録のデータ入力のテキスト画面



この画面では、行間を移動するときは、矢印キーを使用します。サポート資格情報とプロキシエントリ (オプション) を入力します。続けるときは、Esc_2 キーを押します。

「プロファイル」画面が表示されます。

19 「プロファイル」画面で、インストールに選択した内容を確認します。必要に応じてインストールプロファイルを変更できます。次の例は、最後のインストールプロファイル画面です。

```
Profile
+------------------------------------------------------------------------- -+
|The information shown below is your profile for installing Solaris software.|
|It reflects the choices you've made on previous screens.                   |
|                                                                           |
|===========================================================================|
|                                                                           |
|                Installation Option: Initial                               |
|                         Boot Device: c1t2d0                               |
|              Root File System Type: ZFS                                   |
|                    Client Services: None                                  |
|                                                                           |
|                            Regions: North America                         |
|                      System Locale: C ( C )                               |
|                                                                           |
|                           Software: Solaris 10, Entire Distribution       |
|                          Pool Name: rpool                                 |
|              Boot Environment Name: szboot_0507                           |
|                          Pool Size: 17270 MB                              |
```

```
|                    Devices in Pool: c1t2d0                                |
|                                                                           |
|                                                                           |
|    F2_Continue      F6_Help                                               |
+-------------------------------------------------------------------------- --+
```

20 **Solaris** ソフトウェアをインストールするには、**F2** キーを押します。画面の指示に従って、**Solaris** ソフトウェアをインストールします。

Solaris 対話式テキストプログラムによる Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。

追加の製品をインストールする場合は、その製品の DVD または CD を挿入するように指示が表示されます。インストール手順については、該当するインストールマニュアルを参照してください。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

インストールが完了します。インストール後の自動リブートの選択を解除した場合は、続けて手順 21に進みます。

21 前に自動リブートの選択を解除した場合は、次の **2** つのオプションのいずれかを選択します。

- 自動登録を無効にしない場合は、インストールメディアを取り出してから、次に示すように、手動でシステムをリブートします。

  ```
  # reboot
  ```

- 自動登録を無効にして、リブート時に構成データをオラクルに送信しない場合は、手動でシステムをリブートする前に、次の手順を実行します。

注意 – 次の手順に従って自動登録を無効にするには、インストール画面の最初のほうで自動リブートの選択を解除しておく必要があります。

システムが自動的にリブートする場合は、次の手順に従って自動登録を無効にすることはできません。代わりに、自動リブート後に、`regadm` コマンドを使用して自動登録を無効にできます。詳細は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の第 17 章「Oracle Solaris 自動登録コマンド regadm の操作 (手順)」を参照してください。

---

a. インストールが完了したら、手動でリブートする前に、「**!**」を押して端末ウィンドウを開きます。

b. コマンド行で、`/a/var/tmp/autoreg_config` ファイルを削除します。

c. ファイルを保存します。

d. インストールメディアを取り出して、手動でシステムをリブートします。

```
# reboot
```

インストールした ZFS ルートプールでシステムが起動します。

boot コマンドに -L オプションを使用して、使用可能なブート環境のリストを表示できます。SPARC ベースのブートの詳細については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「SPARC システムで指定した ZFS ルートファイルシステムからブートする」を参照してください。

22 **(省略可能) 結果として得られた ZFS ストレージプールとファイルシステムの情報を、次の例のように確認できます。**

ZFS ルートプールは、管理を必要としない特殊なプールです。この例の zfs list の出力では、rpool/ROOT エントリなどルートプールのコンポーネントが識別されています。デフォルトでは、これらにはアクセスできません。

```
# zpool status
  pool: rpool
 state: ONLINE
 scrub: none requested
config:

        NAME        STATE     READ WRITE CKSUM
        rpool       ONLINE       0     0     0
        c1t2d0s0  ONLINE       0     0     0

errors: No known data errors
# zfs list
NAME                      USED  AVAIL  REFER  MOUNTPOINT
rpool                    6.83G  9.66G    62K  /rpool
rpool/ROOT               5.82G  9.66G    18K  legacy
rpool/ROOT/szboot_0507  5.82G  9.66G  5.82G
rpool/dump                512M  9.66G   512M  -
rpool/swap                518M  9.66G   518M  -
```

最初に単一のディスクで ZFS ストレージプールを作成した場合は、インストール後にこのディスクを ZFS ミラー化構成に変換できます。ディスクの追加または接続の詳細については、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプール内のデバイスを管理する」を参照してください。

注意事項　インストール時に問題が発生する場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』の付録 A「問題発生時の解決方法 (作業)」を参照してください。

x86: Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS の初期インストール

Solaris 対話式テキストインストーラを使用して Solaris OS の初期インストールを実行できます。初期インストールを実行すると、インストール先のディスク上にあるデータが上書きされます。この節では、DVD または CD メディアから Solaris OS をインストールする方法について説明します。

▼ x86: GRUB 付き Solaris 対話式テキストインストーラを使用して ZFS をインストールする方法

x86 システム用の Solaris インストールプログラムでは、GRUB ブートローダーが使用されます。この手順では、スタンドアロンの GRUB ブートローダー付き x86 システムを CD または DVD メディアからインストールする方法について説明します。GRUB ブートローダーの概要については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「ブート時に GRUB メニューを編集してブート動作を変更する」を参照してください。

始める前に　インストールを開始する前に、次の作業を行います。

- DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の付録 B「リモートからのインストールまたはアップグレード (作業)」を参照してください。
- 必要なメディアを用意してください。

  次のいずれかのオプションを選択します。

  - DVD からインストールする場合は、Solaris Operating System DVD (x86 版) を使用してください。
  - CD メディアからインストールする場合:

    次のメディアが必要です。

    - Solaris SOFTWARE CD。
    - Solaris Languages CD (x86 版) – 特定の地域の言語をサポートする必要がある場合は、インストールプログラムによってこれらの CD を求めるプロンプトが表示されます。

注 – **Oracle Solaris 10 9/10** リリース以降では、DVD のみ入手できます。Solaris SOFTWARE CD は入手できなくなりました。

- システムの BIOS を調べて、CD または DVD メディアからブートできることを確認します。
- Sun Microsystems, Inc. 以外で製造されたシステムに Solaris OS をインストールする場合は、インストールを開始する前に、Solaris Hardware Compatibility List (`http://www.sun.com/bigadmin/hcl`) を確認してください。
- (省略可能) システムのバックアップをとります。

  既存のデータやアプリケーションを保持するには、システムのバックアップをとります。

  - UFS ファイルシステムのバックアップについては、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の第 23 章「UFS ファイルシステムのバックアップと復元 (概要)」を参照してください。
  - ZFS ルートプールのバックアップについては、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS データを送信および受信する」を参照してください。

1. 適切なメディアをシステムに挿入します。

   Solaris Operating System DVD または Solaris SOFTWARE - 1 CD からブートする場合は、そのディスクを挿入します。この場合、システムの BIOS が DVD または CD からのブートをサポートしている必要があります。

   DVD または CD からブートするように BIOS を手動で設定する必要が生じることもあります。BIOS の設定方法については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

2. システムをシャットダウンして電源を切り、再び電源を入れてシステムをブートします。

3. **CD または DVD からブートするように BIOS を手動で設定する必要がある場合は、システムのブート処理を中断する適切なキーシーケンスを入力します。**

   BIOS でブート優先順位を変更し、BIOS を終了してインストールプログラムに戻ります。

   メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面が再表示されます。GRUB メニューが表示されます。

```
GNU GRUB version 0.95 (631K lower / 2095488K upper memory)
+-------------------------------------------------------------------------+
| Solaris                                                                 |
| Solaris Serial Console ttya                                             |
| Solaris Serial Console ttyb (for lx50, v60x and v65x)                   |
```

```
|                                                                      |
|                                                                      |
+----------------------------------------------------------------------+
Use the ^ and v keys to select which entry is highlighted.
Press enter to boot the selected OS, 'e' to edit the
commands before booting, or 'c' for a command-line.
```

4 「**Solaris**」を選択し、**Enter** キーを押します。

デフォルトのブートディスクが、システムのインストールまたはアップグレードに必要な条件を満たしているかどうかが検査されます。インストールプログラムがシステム構成を検出できない場合は、不足している情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。

検査が完了すると、インストールの選択画面が表示されます。

5 インストールの種類を選択します。デスクトップセッションで対話式テキストインストーラを使って **Solaris OS** をインストールするには、**3** と入力してから **Enter** キーを押します。

このインストールの種類を選択すると、デフォルトの GUI インストーラを無効にして ZFS インストール用のテキストインストーラを実行します。

```
Select the type of installation you want to perform:

   1 Solaris Interactive
   2 Custom JumpStart
   3 Solaris Interactive Text (Desktop session)
   4 Solaris Interactive Text (Console session)
   5 Apply driver updates
   6 Single user shell

   Enter the number of your choice followed by the <ENTER> key.
   Alternatively, enter custom boot arguments directly.

   If you wait 30 seconds without typing anything,
   an interactive installation will be started.
```

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。オペレーティングシステムが自己識別キーボードを見つけられない場合は、次の画面にキー配列の選択情報が表示されます。システムが自己識別キーボードを見つけた場合は、手順 7 に進んでください。

6 (省略可能) 下に示す画面から必要なキー配列を選択し、**F2** キーを押して続行します。

```
Configure Keyboard Layout
+-----------------------------------------------------------------------+
|   Please specify the keyboard layout from the list below.             |
|                                                                       |
|   To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and |
|   press Return to mark it [X].                                        |
|                                                                       |
|            Keyboard  Layout                                           |
|            -----------------------                                    |
```

```
|       [  ] Serbia-And Montenegro                                        |
|       [  ] Slovenian                                                    |
|       [  ] Slovakian                                                    |
|       [  ] Spanish                                                      |
|       [  ] Swedish                                                      |
|       [  ] Swiss-French                                                 |
|       [  ] Swiss-German                                                 |
|       [  ] Taiwanese                                                    |
|       [  ] TurkishQ                                                     |
|       [  ] TurkishF                                                     |
|       [  ] UK-English                                                   |
|       [ X] US-English                                                   |
|                                                                         |
|    F2_Continue      F6_Help                                             |
+-------------------------------------------------------------------------+
```

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。ウィンドウが機能していることを確認する 2 つの画面が表示される場合があります。次の 2 つの画面で確認し、テキストモードで続行します。

7 (省略可能) 次の画面で、**Enter** キーを押します。

```
Starting Solaris Interactive (graphical user interface)
Installation
+-----------------------------------------------------------+
| You must respond to the first question within 30 seconds  |
| or the installer proceeds in a non-window environment     |
| (console mode).                                           |
|                                                           |
| If the screen becomes blank or unreadable the installer   |
| proceeds in console mode.                                 |
|                                                           |
| If the screen does not properly revert to console mode,   |
| restart the installation and make the following selection: |
|                                                           |
|      Solaris Interactive Text (Console session)           |
-----------------------------------------------------------+
```

進捗メッセージが完了すると、別の確認画面が表示されます。

8 (省略可能) 次のテキスト画面内にカーソルを移動して、**Enter** キーを押します。

```
+-----------------------------------------------------------+
|If the screen is legible, press ENTER in this window.      |
|                                                           |
|                                                           |
|                                                           |
|-----------------------------------------------------------+
```

言語の選択肢の一覧が表示される場合があります。この画面が表示されない場合は、手順 10 に進んでください。

9 (省略可能) 次の画面で、インストール時に使用する言語を選択し、**F2** キーを押します。

```
Select a Language
+-------------------------------------------------------------------------+
```

```
|   Please specify the the language from the list below.                  |
|                                                                         |
|   To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and   |
|   press Return to mark it [X].                                          |
|                                                                         |
|       [  ] English                                                      |
|       [  ] French                                                       |
|       [  ] German                                                       |
|       [  ] Italian                                                      |
|       [  ] Japanese                                                     |
|       [  ] Korean                                                       |
|       [  ] Simplified Chinese                                           |
|       [  ] Spanish                                                      |
|       [  ] Swedish                                                      |
|       [  ] Traditional Chinese                                          |
|       [  ] UK-English                                                   |

|    F2_Continue      F6_Help                                             |
+-------------------------------------------------------------------------+
```

10 **F2** キーを押してインストールを開始します。構成に関する残りの質問が表示される場合は、それらに答えます。

- システム情報の事前設定

  次のいずれかのオプションを選択します。

  - すべてのシステム情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力は求められません。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 2 章「システム構成情報の事前設定 (作業)」を参照してください。
  - すべてのシステム情報が事前設定されている場合以外は、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が求められます。20 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照して、構成の質問に答えてください。

- ネットワーク構成

  構成の質問の 1 つで、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を可能にするかどうかを尋ねられます。デフォルトの回答は「はい」です。

  「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは Secure Shell だけになります。「はい」を選択すると、以前の Solaris リリースと同様に、より多くのサービスが使用可能になります。インストール後に任意のサービスを使用可能にできるため、「いいえ」を選択しても問題ありません。これらのオプションについての詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

ネットワークサービスは、netservices open コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後に有効にすることができます。詳細は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

構成の質問に答え、ルートパスワードを設定すると、Solaris の対話式インストール画面が表示されます。

```
Solaris Interactive Installation
+-----------------------------------------------------------------------------+
|On the following screens, you can accept the defaults or you can customize |
| how Solaris software will be install by:                                    |
|  - Selecting the type of Solaris software to install                        |
|  - Selecting disks to hold the software you've selected                     |
|  - Selecting unbundled products to be installed with Solaris                |
|  - Specifying how file systems are laid out on the disks                    |
|                                                                             |
|After completing these tasks, a summary of your selections                  |
|(called a profile) will be displayed.                                        |
|                                                                             |
|There are two ways to install your Solaris software:                         |
|                                                                             |
|  - "Standard" installs your system from a standard Solaris                 |
|     Distribution. Selecting "standard" allows you to choose                |
|     between initial install and upgrade, if your system is upgradeable.    |
|                                                                             |
|  - "Flash" installs your system from one or more Flash Archives.           |
|                                                                             |
|    F2_Continue      F6_Help                                                 |
+-----------------------------------------------------------------------------+
```

11 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを決定します。**F2** キーを押します。

重要**:** システムをリブートする前に自動登録を無効にする場合は、自動リブートの選択を解除します。

システム上に ZFS ストレージプールがすでに存在する場合、それらは次のメッセージで認識されますが、既存のプールのディスクを選択して新しいストレージプールを作成する場合以外は変更されません。

```
There are existing ZFS pools available on this system.  However, they can only be upgraded
using the Live Upgrade tools.  The following screens will only allow you to install a ZFS root system,
not upgrade one.
```

ライセンス画面が表示されます。

12 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。**F2** キーを押します。

「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」画面が表示される場合があります。アップグレード可能な UFS ファイルシステムがある場合は、この画面が表示されます。この画面が表示されない場合は、手順 14 に進んでください。

13 **ZFS** のインストールを実行するには、**F4** キーを押して初期インストールを行う必要があります。

地域、ロケール、および追加の製品を選択する画面が表示されます。

14 地域、ロケール、および追加の製品を選択します。

「ファイルシステムの種類の選択」画面が表示されます。

15 **ZFS** ルートプールを作成してインストールするには、**ZFS** オプションを選択します。

```
Choose a Filesystem Type
+-----------------------------------------------------------------------------+
|   Select the filesystem to use for your Solaris installation                |
|                                                                             |
|           [ ] UFS                                                           |
|           [X] ZFS                                                           |
|                                                                             |
|    F2_Continue      F6_Help                                                 |
+-----------------------------------------------------------------------------+
```

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

16 実行するインストールの種類を選択します。**F2** キーを押します。

デフォルトインストールを実行するには、表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。この例では、デフォルトの「全体ディストリビューション」のインストールが選択されています。

ソフトウェアグループの詳細については、18 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」を参照してください。

```
Select Software
+-----------------------------------------------------------------------------+
|Select the Solaris software to install on the system                         |
|                                                                             |
|Note: After selecting a software group, you can add or remove                |
|software by customizing it. However this requires understanding of           |
|software dependencies and how Solaris software is packaged.                  |
|                                                                             |
|  [ ] Entire Distribution plus OEM support ......5838.00 MB                  |
|  [X] Entire Distribution........................5830.00 MB                  |
|  [ ] Developer System Support...................5695.00 MB                  |
|  [ ] End User System Support....................4747.00 MB                  |
|  [ ] Core System Support........................1558.00 MB                  |
|  [ ] Reduced Networking Core System Support.....1512.00 MB                  |
|                                                                             |
```

```
|    F2_Continue      F6_Help                                          |
+-----------------------------------------------------------------------+
```

「ディスクの選択」画面が表示されます。

17 インストールするソフトウェアを選択したあと、**ZFS** ストレージプールを作成するためのディスクの選択を求めるプロンプトが表示されます。この画面は以前の **Solaris** リリースと同様ですが、次のテキストが異なります。

```
For ZFS, multiple disks will be configured as mirrors, so the disk you choose,
or the slice within the disk must exceed the Suggested Minimum value.
```

ZFS ルートプールに使用するディスクとして、1 つまたは複数を選択できます。

- 単一のディスクを選択した場合、あとでミラー化構成にするには、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプール内のデバイスを管理する」で `zpool attach` コマンドを参照してください。
- 2 つのディスクを選択すると、ルートプールには 2 ディスク構成が設定されます。2 ディスクまたは 3 ディスクのミラー化プールが最適です。
- 8 つのディスクがある場合に 8 つのディスクすべてを選択すると、ルートプールでは 8 つのディスクが単一の大規模なミラーとして使用されます。これは最適な構成ではありません。

ルートプールでは RAID-Z プール構成はサポートされていません。ZFS ストレージプールの構成方法の詳細については、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプールの複製機能」を参照してください。

```
Select Disks
+-----------------------------------------------------------------------+
|On this screen you must select the disks for installing Solaris        |
|software. Start by looking at the Suggested Minimum Field;             |
|this value is the approximate space needed to install the software     |
|you've selected. For ZFS, multiple disks will be configured as mirrors,|
|so the disk you choose on the slice within the disk must exceed        |
|the Suggested Minimum Value.                                           |
|                                                                       |
|  Note: xx denotes the current boot disk                               |
|                                                                       |
|Disk Device                                        Available Space     |
|=======================================================================|
|                                                                       |
|[X]xx c0d0                                          29164 MB (F4 to edit)|
|                                                                       |
|                                 Maximum Root Size: 29164 MB           |
|                                 Suggested Minimum: 5838 MB            |
|                                                                       |
|    F2_Continue      F6_Help                                           |
+-----------------------------------------------------------------------+
```

「データの保存」画面が表示されます。

18 (省略可能) ソフトウェアをインストールするために選択したディスク上のデータを保存します。

インストール用に選択したディスクに、ファイルシステムや命名されていないスライスが存在する場合、必要であればこの時点でそれらを保存できます。

```
Preserve Data?
+-----------------------------------------------------------------------+
|Do you want to preserve existing data? At least one of the disks you've    |
|selected for installing Solaris software has file systems or unnamed slices|
|that you may want to save                                                  |
|                                                                           |
|                                                                           |
|    F2_Continue      F4_Preserve    F6_Help                                |
+-----------------------------------------------------------------------+
```

データを保存する場合は F4 キーを押すと、データを保存するための画面が表示されます。

19 (省略可能) 保存するデータを選択します。

```
Preserve Data
+-----------------------------------------------------------------------+
|On this screen you can perserve the data on some or all disk slices. Any   |
|slice you preserve will not be touched when Solaris software is installed  |
|If  you preserve data on / (root), /usr, or /var you  must rename them     |
|because new versions of these file systems are created when Solaris        |
|software is installed.                                                     |
|                                                                           |
|Warning: Preserving an 'overlap' slice will not preserve any data within   |
|it. To preserve this data, you must explicitly set the mount point name.  |
|                                                                           |
|Mount Point or Pool                  State    Disk/Slice            Size |
|=========================================================================|
|[ ] zfs: rpool                       Online    c0d0s0            27133 MB |
|[ ]swap                                        c0d0s1             2047 MB |
|[X]overlap                                     c0d0s2            29188 MB |
|                                                                           |
|                                                                           |
|    F2_Continue                     F6_Help                                |
+-----------------------------------------------------------------------+
```

ZFS 設定を構成するための画面が表示されます。

20 デフォルト値をそのまま使用できます。または、**ZFS** プールの名前、データセット名、プールサイズ、スワップ、およびダンプを変更できます。また、/var ファイルシステムの作成およびマウントの方法を変更することもできます。

```
Configure ZFS Settings
+-------------------------------------------------------------------------- -+
|Specify the name of the pool to be created from the disk(s) you have chosen.|
|Also specify the name of the dataset to be created within the pool that is  |
|to be used as the root directory for the filesystem.                        |
|                                                                            |
|                                                                            |
|              ZFS Pool Name: rpool                                          |
|      ZFS Root Dataset Name: szboot_0507                                    |
```

```
|          ZFS Pool Size in (MB): 17270                                  |
|          Size of swap area in (MB): 1024                               |
|          Size of dump area in (MB): 1024                               |
|        (Pool size must be between 9472 MB and 17270 MB)                |
|                                                                        |
|                        [X] Keep / and /var combined                    |
|                        [ ] Put /var on a separate dataset              |
|                                                                        |
|    F2_Continue      F6_Help                                            |
+------------------------------------------------------------------- --+
```

リモートファイルシステムをマウントするための画面が表示されます。

21 リモートファイルシステムをマウントするかどうかを決定します。

```
Mount Remote File System
+------------------------------------------------------------------- -+
|Do you want to mount a software from a remote file server? This may  |
|be necessary if you had to remove software because of disk space problems.  |
|                                                                     |
|                                                                     |
|    F2_Continue      F6_Help                                         |
+------------------------------------------------------------------- --+
```

22 構成に関する追加の質問が表示される場合は、それらに答えます。

- インストールまたはアップグレードの前に sysidcfg ファイルで auto_reg キーワードを使用して自動登録設定を行った場合は、構成に関する質問にすべて答える一部としてその情報が求められることはありません。

注 – 自動登録については、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「Oracle Solaris 自動登録」を参照してください。

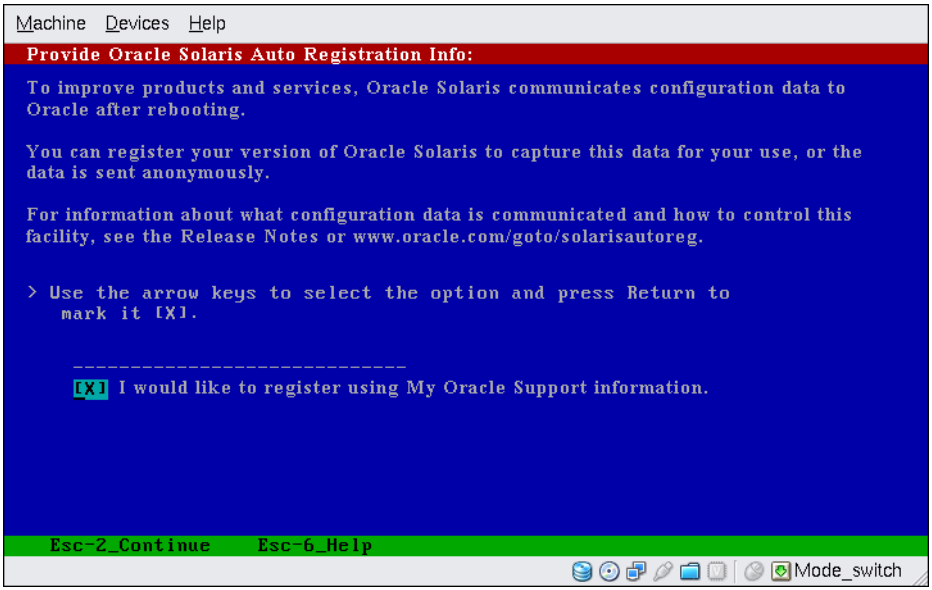
- sysidcfg ファイルに auto_reg キーワードを含めなかった場合は、構成に関する質問にすべて答える一部として自動登録に関する情報を指定するように求められます。

注 – インストールまたはアップグレードの最後に自動登録を無効にする場合は、何も情報を入力せずにこれらの自動登録画面を進めることができます。

---

a. サポート資格情報を使って登録するか、匿名でデータを送信するかを選択します。

図 3–3　自動登録のテキスト画面



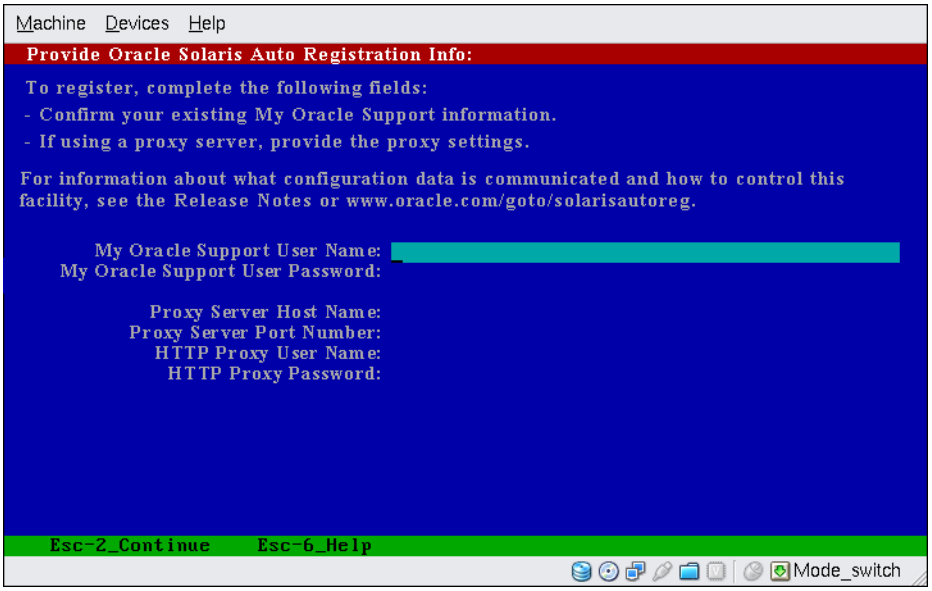
テキスト画面では、オプションボックスに移動するときは、矢印キーを使用します。オプションボックスに印を付けて、サポート資格情報を使って登録するときは、Return キーを押します。続けるときは、Esc_2 キーを押します。

b. 要求されたプロキシ情報と資格情報を指定します。

前の画面で登録することを選択した場合は、My Oracle Support のユーザー名とパスワードを指定するように求められます。プロキシサーバーを使用する場合は、サーバーのホスト名とポート番号、およびプロキシのユーザー名とパスワードを指定できます。

前の画面で匿名の登録を選択した場合は、この画面ではプロキシ情報だけを求められます。

図 3–4　自動登録のデータ入力のテキスト画面



行間を移動するときは、矢印キーを使用します。サポート資格情報とプロキシエントリ (オプション) を入力します。続けるときは、Esc_2 キーを押します。

「プロファイル」画面が表示されます。

23 「プロファイル」画面で、インストールに選択した内容を確認します。必要に応じてインストールプロファイルを変更できます。次の例は、最後のインストールプロファイル画面です。

```
Profile
+------------------------------------------------------------------------- -+
|The information shown below is your profile for installing Solaris software.|
|It reflects the choices you've made on previous screens.                    |
|                                                                            |
|============================================================================|
|                                                                            |
|                Installation Option: Initial                                |
|                          Boot Device: c0d0                               |
|              Root File System Type: ZFS                                    |
|                    Client Services: None                                   |
|                                                                            |
|                            Regions: North America                          |
|                      System Locale: C ( C )                                |
|                                                                            |
|                           Software: Solaris 10, Entire Distribution        |
|                          Pool Name: rpool                                  |
|              Boot Environment Name: szboot_0507                            |
|                          Pool Size: 17270 MB                               |
|                    Devices in Pool: c1t2d0                                 |
```

```
|                                                                      |
|                                                                      |
|    F2_Continue      F6_Help                                          |
+---------------------------------------------------------------------- --+
```

24 **Solaris** ソフトウェアをインストールするには、**F2** キーを押します。画面の指示に従って、**Solaris** ソフトウェアをインストールします。

Solaris 対話式テキストプログラムによる Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。

追加の製品をインストールする場合は、その製品の DVD または CD を挿入するように指示が表示されます。インストール手順については、該当するインストールマニュアルを参照してください。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

インストールが完了します。前にインストーラの画面で自動リブートの選択を解除した場合は、続けて手順 25に進みます。

25 前に自動リブートの選択を解除した場合は、次の **2** つのオプションのいずれかを選択します。

- 自動登録を無効にしない場合は、インストールメディアを取り出してから、次に示すように、手動でシステムをリブートします。

  ```
  # reboot
  ```

- 自動登録を無効にして、リブート時に構成データをオラクルに送信しない場合は、手動でシステムをリブートする前に、次の手順を実行します。

注意 – 次の手順に従って自動登録を無効にするには、インストール画面の最初のほうで自動リブートの選択を解除しておく必要があります。

システムが自動的にリブートする場合は、次の手順に従って自動登録を無効にすることはできません。代わりに、自動リブート後に、`regadm` コマンドを使用して自動登録を無効にできます。詳細は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の第 17 章「Oracle Solaris 自動登録コマンド regadm の操作 (手順)」を参照してください。

---

a. インストールが完了したら、手動でリブートする前に、「**!**」を押して端末ウィンドウを開きます。

b. コマンド行で、`/a/var/tmp/autoreg_config` ファイルを削除します。

c. ファイルを保存します。

d. インストールメディアを取り出して、手動でシステムをリブートします。

```
# reboot
```

システムをリブートすると、GRUB メニューに、新しくインストールした Solaris OS などのインストールされているオペレーティングシステムの一覧が表示されます。

26 ブートするオペレーティングシステムを選択します。

新たに選択を行わなかった場合は、デフォルトの選択が読み込まれます。

GRUB メニューリストが表示されます。

```
GNU GRUB version 0.95 (637K lower / 3144640K upper memory)
+-------------------------------------------------------------------------+
|szboot_0507                                                              |
|szboot_0507 Failsafe                                                     |
|                                                                         |
|+------------------------------------------------------------------------+

     Use the ^ and v keys to select which entry is highlighted.
     Press enter to boot the selected OS, .e. to edit the
     commands before booting, or .c. for a command-line.
```

27 **GRUB** メニューが表示されたら、**Enter** キーを押してデフォルトの **OS** インスタンスをブートします。デフォルトは、新しくインストールしたルートプールです。

この例では、ブート環境名は `szboot_0507` です。10 秒以内にエントリを選択しないと、システムは自動的にブートします。

28 インストールが完了したら、結果として得られた **ZFS** ストレージプールとファイルシステムの情報を、次の例のように確認します。

ZFS ルートプールは、管理を必要としない特殊なプールです。この例の `zfs list` の出力では、`rpool/ROOT` エントリなどルートプールのコンポーネントが識別されています。デフォルトでは、これらにはアクセスできません。

```
# zpool status
  pool: rpool
 state: ONLINE
 scrub: none requested
config:

        NAME        STATE     READ WRITE CKSUM
        rpool       ONLINE       0     0     0
        c1d0s0  ONLINE       0     0     0

errors: No known data errors
# zfs list
NAME                     USED  AVAIL  REFER  MOUNTPOINT
rpool                   6.83G  9.66G    62K  /rpool
rpool/ROOT              5.82G  9.66G    18K  legacy
rpool/ROOT/szboot_0507  5.82G  9.66G  5.82G
```

```
rpool/dump              512M  9.66G   512M  -
rpool/swap              518M  9.66G   518M  -
```

最初に単一のディスクで ZFS ストレージプールを作成した場合は、インストール後にこのディスクを ZFS ミラー化構成に変換できます。ディスクの追加または接続の詳細については、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプール内のデバイスを管理する」を参照してください。

参考

次の手順

使用するマシンに複数のオペレーティングシステムをインストールする場合、ブートするためには、それらのオペレーティングシステムを GRUB ブートローダーに認識させる必要があります。詳細は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「ブート時に GRUB メニューを編集してブート動作を変更する」を参照してください。

注意事項

インストール時に問題が発生する場合は、『Oracle Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』の付録 A「問題発生時の解決方法 (作業)」を参照してください。

索引

B

BIOS
- ブートの優先順位の設定，54, 84
- 要件，51, 84

G

GRUB 付き x86 ベースのシステムのインストール，50-68
- ZFS の場合，83-97

I

IP アドレス, デフォルトルートの指定，28

K

Kerberos, 構成情報，24

R

Reduced Networking サポート
- サイズ，19
- 説明，18-20

S

Solaris インストールプログラム，35-68

Solaris インストールプログラム *(続き)*
- 「インストールの準備完了」画面
  - SPARC ベースのシステム，47
  - x86 ベースのシステム，65
- グラフィカルユーザーインタフェース (GUI)
  - 開始コマンド (SPARC ベースのシステム)，39
  - 開始コマンド (x86 ベースのシステム)，56
  - 説明，14
- 自動登録の GUI 画面
  - SPARC ベースのシステム，43, 62
- 自動登録の GUI によるデータ入力画面
  - SPARC ベースのシステム，45, 63
- 自動登録のカーソルによるデータ入力画面
  - SPARC ベースのシステム，46, 64, 79, 93
- 自動登録のテキスト画面
  - SPARC ベースのシステム，44, 62, 79, 92
- 説明，14-15
- テキストインストーラ
  - コンソールセッションでの開始コマンド (SPARC ベースのシステム)，39
  - コンソールセッションでの開始コマンド (x86 ベースのシステム)，57
  - 説明，14
  - デスクトップセッションでの開始コマンド (SPARC ベースのシステム)，39
  - デスクトップセッションでの開始コマンド (x86 ベースのシステム)，56
- メモリー要件，14
- GRUB の指示，50-68
- SPARC ベースのシステムの指示，36-49
- x86 ベースのシステムの指示，50-68

SPARC ベースのシステム
　インストールの指示，35-49
　インストールの準備，36
stty コマンド，31

W

Solaris インストールプログラムを表示するための
　メモリー要件，14

X

x86 based ベースのシステム
　ブート
　　ZFS の場合，84
x86 ベースのシステム
　BIOS 要件，51, 84
　GRUB 付きでインストール，50-68
　　ZFS の場合，83-97
　インストールの指示，50-68
　　ZFS の場合，83-97
　インストールの準備，50
　　ZFS の場合，83
　ブート，53

あ

アップグレード
　SPARC ベースのシステム，35-49
　SPARC ベースのシステムの指示，36-49
　x86 ベースのシステム，50-68
　　ZFS の場合，83-97
　x86 ベースのシステムの指示，50-68
　　ZFS の場合，83-97
　ポストインストール作業
　　SPARC ベースのシステム，48
　　x86 ベースのシステム，66
　ログファイル，48, 81, 95

い

インストール
　SPARC ベースのシステム，35-49
　　ZFS の場合，72
　x86 ベースのシステム，50-68
　　ZFS の場合，83-97
　インストール時更新 (ITU)，56
　デバイスドライバ，56
　必要な情報，20-32
インストール、GRUB 付き x86 ベースのシステ
　ム，50-68
　ZFS の場合，83-97
インストール時更新 (ITU)、インストール，56
インストール時のデバイス設定の変更，39, 57, 72
　ZFS の場合，85
インストール情報のチェックリスト，20-32
インストールに必要な情報，20-32
インストールに必要なメディア
　SPARC ベースのシステム，36
　x86 ベースのシステム，50, 83
インストールの開始
　SPARC ベースのシステム，39
　x86 ベースのシステム，56
インストールの開始コマンド
　SPARC ベースのシステム，39
　x86 ベースのシステム，56
インストールの準備
　SPARC ベースのシステム，36
　x86 ベースのシステム，50
　　ZFS の場合，83
　インストールする前に必要な情報，20-32
「インストールの準備完了」画面，47
インストールの前提条件
　SPARC ベースのシステム，36
　x86 ベースのシステム，50
　　ZFS の場合，83
インストール前の情報収集，20-32

え

エンドユーザーシステムサポート
　サイズ，19
　説明，18-20

か

開発者システムサポート
　サイズ，19
　説明，18-20
カスタムインストール、説明，43

き

キーボード、SPARC ベースのシステム用に設定，39, 72
キーボード、x86 ベースのシステム用に設定，57
　ZFS の場合，85

く

グラフィカルユーザーインタフェース (GUI)
　開始コマンド (SPARC ベースのシステム)，39
　開始コマンド (x86 ベースのシステム)，56
　説明，14
　メモリー要件，14

け

言語、インストール時の選択，41, 59, 73
　ZFS の場合，86

こ

コアシステムサポート
　サイズ，19
　説明，18-20

し

システム BIOS でのブート優先順位の設定，54, 84
システムのブート
　SPARC ベースのシステム，39
　　ZFS の場合，72
　x86 ベースのシステム，53
　　ZFS の場合，84
システム要件，12-20
自動登録の GUI によるデータ入力画面，45, 63
自動登録のカーソルによるデータ入力画面，46, 64, 79, 93
自動登録の画面，43, 62
自動登録のテキスト画面，44, 62, 79, 92
出力ファイル
　アップグレードログ，48, 81, 95
シリアルコンソール，54
シリアルコンソールの設定，54

す

スライス、説明，12

せ

全体ディストリビューション
　サイズ，19
　説明，18-20
全体ディストリビューションと OEM サポート
　サイズ，19
　説明，18-20

そ

ソフトウェアグループ，19

て

ディスク容量, ソフトウェアグループの要件，19
テキストインストーラ
　ZFS ルートプールのインストール，69-97
　コンソールセッションでの開始コマンド (SPARC ベースのシステム)，39
　コンソールセッションでの開始コマンド (x86 ベースのシステム)，57
　説明，14
　デスクトップセッションでの開始コマンド (SPARC ベースのシステム)，39

テキストインストーラ (続き)
デスクトップセッションでの開始コマンド (x86 ベースのシステム)，56
メモリー要件，14
手順
SPARC ベースのシステムのインストール，35-49
x86 ベースのシステムのインストール，50-68
ZFS の場合，83-97
デバイス設定、変更，39, 57, 72
ZFS の場合，85
デバイスドライバ、インストール，56

は

パーティション、説明，12

ふ

ブートの優先順位
システム BIOS の設定，54, 84

よ

要件，12-20
BIOS，51, 84
Solaris インストールプログラムの表示，14
メディア
SPARC ベースのシステム，36
x86 ベースのシステム，50, 83
メモリー，13

ろ

ログファイル
アップグレードインストール，48, 81, 95